# 高浜Ⅰ遺跡 (2 区 )

一般県道矢尾今市線地方道路交付金事業（大塚工区）
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書３

2016 年 3 月

島根県教育委員会

# 高浜Ⅰ遺跡 (2 区 )

一般県道矢尾今市線地方道路交付金事業（大塚工区）
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書３

2016 年 3 月

島根県教育委員会

高浜 I 遺跡 2 区全景

高浜 I 遺跡出土陶磁器類

# 序

本書は、島根県教育委員会が島根県土木部から委託を受けて、平成 26 年度に実施した一般県道矢尾今市線（大塚工区）予定地内に所在する高浜Ⅰ遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。

高浜Ⅰ遺跡は出雲市高岡町に所在し、近隣には四絡遺跡群や山持遺跡など、当地の歴史のみならず、出雲平野の集落の形成過程を考えていく上で重要な遺跡が点在しています。

今回の調査では、16 世紀から 17 世紀頃の大規模な集落跡とそれを区画するための大溝などが見つかりました。出土遺物の中には、中国や朝鮮半島、国内の各地で生産された陶磁器類も多数含まれ、中世の集落を考える上で重要な遺跡といえます。

これらの調査成果は島根県の歴史を明らかにする上で欠くことのできない貴重な成果であるとともに、本書が地域の歴史と埋蔵文化財に対する理解と関心を深める一助となれば幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査と報告書の作成にあたりご協力いただきました地元住民の皆様や、出雲市並びに島根県土木部をはじめとする関係機関の皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成 28 年 3 月

島根県教育委員会
教育長　藤原孝行

# 例　言

1．本書は、島根県土木部道路建設課からの委託を受けて、島根県教育委員会が平成 26 年度に実施した一般県道矢尾今市線地方道路交付金事業（大塚工区）に伴う埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

2．発掘調査地は下記のとおりである。

出雲市高岡町 660-1 外　高浜Ⅰ遺跡

3．調査組織は次のとおりである。

調査主体　島根県教育委員会

平成 26 年度　現地調査

［事　務　局］　廣江耕史（島根県埋蔵文化財調査センター所長）、渡部宏之（総務課長）
池淵俊一（管理課長）

［調査担当者］　今岡一三（調査第三課長）、田中玲子（同調査補助員）

平成 27 年度　報告書作成

［事　務　局］　廣江耕史（島根県埋蔵文化財調査センター所長）、渡部宏之（総務課長）
池淵俊一（管理課長）

［調査担当者］　今岡一三（調査第一課長）、田中玲子（同調査補助員）

4．発掘調査作業（安全管理、発掘作業員の雇用、機械による掘削、測量等）については、島根県教育委員会が株式会社トーワエンジニアリングへ委託した。

5．挿図中の北は測量法に基づく平面直角第Ⅲ系のＸ軸方向を指し、座標系のＸＹ座標は世界測地系による。また、レベル高は海抜高を示す。

6．本書で使用した第２図は国土地理院発行の 1/25,000 地図、第３図は出雲市都市計画平面図を使用して作成したものである。

7．本書に掲載した写真は、埋蔵文化財調査センターの職員の協力を得て今岡が撮影した。

8．本書に掲載した遺構・遺物実測図の作成は、調査員のほか、田中玲子、阿部賢治が行い、遺物・遺構の浄書は整理作業員が行った。

9．本書の執筆、編集は埋蔵文化財調査センター職員の協力を得て今岡が行った。また、編集にあたってはＤＴＰを採用し、Adobe 社の PhotoshopCS5、IllustratorCS5、InDesignCS5 で編集作業を行った。

10．本書に掲載した遺物及び実測図・写真などの資料は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センター（松江市打出町 33 番地）にて保管している。

# 凡　例

1．本文、図版中の表に用いた遺構略号は次のとおりである。
　SB：堀立柱建物、SD：溝、SX：墓その他の遺構、SK：土坑、SE：井戸、SR：自然河道
2．本文、挿図、写真図版中の遺物番号は一致する。
3．遺物実測図の網掛けは煤痕を示している。
　また▲印は釉際を示す。
4．本書で用いた遺物の分類及び編年観は基本的に下記の各論文、報告書を参考にした。


松本岩雄　「出雲・隠岐」『弥生土器の様式と編年』山陽・山陰編　木耳社　1992 年

重根弘和　「中世備前焼に関する考察」『山口大学考古学論集』近藤喬一先生退官記念論文集　近藤喬一先生退官記念事業会　2003 年

愛知県史編纂委員会編　『愛知県史　別編　窯業 2　中世・近世　瀬戸系』　2006 年

中世土器研究会編　『概説　中世の土器・陶磁器』　真陽社　1995 年

九州近世陶磁学会　『九州陶磁の編年－九州近世陶磁学会 10 周年記年－』　2000 年

太宰府市教育委員会　『太宰府条坊跡 XV －陶磁器分類編－』太宰府市の文化財第 49 集　2000 年

森田　勉　「14 ～ 16 世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究』2　1982 年

上田秀夫　「14 ～ 16 世紀の青磁椀の分類」『貿易陶磁研究』2　1982 年

小野正敏　「15、16 世紀の染付椀、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』2　1982 年

片山まび　「16 世紀後半～ 17 世紀初の朝鮮陶磁の生産・流通・需要－慶尚南道地方を中心に－」『関西近世考古学研究 17』　関近研　2009 年

片山まび　「高麗・朝鮮時代の陶磁生産と海外輸出」『陶磁器流通の考古学－日本出土の海外陶磁－』　高志書院　2013 年

# 本文目次

第１章　調査に至る経緯と経過 …… 1
　第１節　調査の経緯
　第２節　調査の経過

第２章　位置と歴史的環境 …… 3

第３章　高浜Ⅰ遺跡 …… 7
　第１節　調査の概要
　第２節　遺構の調査
　第３節　包含層の調査

第４章　総括 …… 41

# 挿図目次


第 1 図　高浜 I 遺跡の位置 …… 1
第 2 図　高浜 I 遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 3
第 3 図　高浜 I 遺跡調査区配置図 …… 8
第 4 図　調査区全体図 …… 9
第 5 図　2-1 区全体図 …… 10
第 6 図　2-2 区全体図 …… 11
第 7 図　調査区セクション図 (2-1 区東壁・西壁 ) …… 12
第 8 図　調査区セクション図 (2-2 区南壁 ) …… 13
第 9 図　SB01 実測図 …… 14
第 10 図　SB02 実測図 …… 15
第 11 図　SB03 実測図 …… 15
第 12 図　SB04 実測図 …… 16
第 13 図　SB05 実測図 …… 17
第 14 図　SB06 実測図 …… 18
第 15 図　ピット出土遺物実測図 (1) …… 19
第 16 図　ピット出土遺物実測図 (2) …… 20
第 17 図　SD02 平面図 …… 21
第 18 図　SD02 セクション図 …… 22
第 19 図　SD02 出土遺物実測図 (1) …… 23
第 20 図　SD02 出土遺物実測図 (2) …… 24
第 21 図　SD02 出土遺物実測図 (3) …… 25
第 22 図　SD 関係・SD03 出土遺物実測図 …… 26
第 23 図　SX01・02 実測図 …… 27
第 24 図　SX01・02 出土遺物実測図 …… 27
第 25 図　SX03・04・07 実測図 …… 28
第 26 図　SX04・07 実測図 …… 29
第 27 図　SX03・04 出土遺物実測図 …… 29
第 28 図　SX05 実測図 …… 30
第 29 図　SX05 出土遺物実測図 …… 30
第 30 図　SX06 実測図 …… 31
第 31 図　SX06 出土遺物実測図 …… 32
第 32 図　SX08 実測図 …… 32
第 33 図　SX08 出土遺物実測図 …… 33
第 34 図　SK 出土遺物実測図 …… 33
第 35 図　SE01 実測図 …… 34

第 36 図　SE01 出土遺物実測図 …… 35
第 37 図　SR01 セクション図 …… 35
第 38 図　SR01 出土遺物実測図 …… 36
第 39 図　包含層出土遺物実測図 (1) …… 37
第 40 図　包含層出土遺物実測図 (2) …… 38
第 41 図　包含層出土遺物実測図 (3) …… 39
第 42 図　包含層出土遺物実測図 (4) …… 40
第 43 図　包含層出土遺物実測図 (5) …… 40

# 表目次

第 1 表　出土土器観察表 …… 43
第 2 表　出土木製品観察表 …… 48
第 3 表　出土銭貨計測表 …… 49
第 4 表　出土石製品観察表 …… 49

# 写真図版目次


図版1　1．2-1区調査前風景（南から）
　　2．2-1区SB01完掘状況（東から）
図版2　1．2-1区SB02完掘状況（西から）
　　2．2-1区SB04・06完掘状況（西から）
図版3　1．2-1区SB05完掘状況（西から）
　　2．2-1区SK08及びピット完掘状況
　　（北西から）
図版4　1．2-1区ピット56完掘状況（北から）
　　2．2-1区ピット69完掘状況（北から）
図版5　1．2-1区ピット142遺物出土状況
　　（東から）
　　2．2-1区SD02検出状況（北から）
図版6　1．2-1区SD02セクション（南から）
　　2．2-1区SD02遺物出土状況
　　（南東から）
図版7　1．2-1区SD02遺物出土状況（東から）
　　2．2-1区SD02遺物出土状況（南から）
図版8　1．2-1区SD02完掘状況（北から）
　　2．2-2区SD02セクション（北から）
図版9　1．2-2区SD02遺物出土状況（東から）
　　2．2-2区SD02完掘状況（北から）
図版10　1．2-1区南側遺構検出状況（南から）
　　2．2-1区SX01検出状況（北から）
図版11　1．2-1区SX01半裁状況（西から）
　　2．2-1区SX01骨片出土状況
　　（北東から）
図版12　1．2-1区SX01置石出土状況（北から）
　　2．2-1区SX01完掘状況（北から）
図版13　1．2-2区SX03・04検出状況（東から）
　　2．2-2区SX03遺物出土状況（南から）
図版14　1．2-2区SX04内部状況（北から）
　　2．2-2区SX04出土遺物（北から）
図版15　1．2-2区SX04・07完掘状況（東から）
　　2．2-2区SX03・04・07完掘状況
　　（南から）
図版16　1．2-2区SX05内部状況（西から）
　　2．2-2区SX05出土遺物（西から）
図版17　1．2-2区SX05完掘状況（西から）
　　2．2-2区SX06完掘状況（西から）
図版18　1．2-2区SX06出土遺物（西から）
　　2．2-2区SE01検出状況（南から）
図版19　1．2-2区SE01半裁状況（北東から）
　　2．2-2区SE01セクション（北から）
図版20　1．2-2区SE01完掘状況（北西から）
　　2．2-2区SE01底面検出状況
　　（南西から）
図版21　1．2-2区SR01完掘状況（東から）
　　2．2-1区南側調査区完掘状況
　　（西から）
図版22　1．2-1区北側調査区完掘状況（西から）
　　2．2-2区全景完掘状況（北東から）
図版23　1．2-1区調査区全景
　　2．2-2区調査区全景
図版24　1．ピット出土遺物　内(1)（第15図）
　　2．ピット出土遺物　外(1)（第15図）
図版25　1．ピット出土遺物(2)（第15図）
　　2．ピット柱根（第15・16図）
図版26　1．SD02出土遺物　内(1)（第19図）
　　2．SD02出土遺物　外(1)（第19図）
図版27　1．SD02出土遺物　内(2)（第19図）
　　2．SD02出土遺物　外(2)（第19図）
図版28　1．SD02出土遺物(3)（第19図）
　　2．SD02出土遺物(4)（第19・20図）
図版29　1．SD02出土遺物(5)（第20・21図）
　　2．SD02・03出土遺物（第21・22図）
図版30　1．SX01～06出土遺物(1)
　　（第24・27・31図）
　　2．SX01～06出土遺物(2)
　　（第27・29・31図）
図版31　1．SK05・07出土遺物（第34図）

２．SK08・SE01 出土遺物
（第 34・36 図）
図版 32 １．SR01 出土遺物 (1)（第 38 図）
２．SR01 出土遺物 (2)（第 38 図）
図版 33 １．包含層出土遺物　内 (1)（第 40 図）
２．包含層出土遺物　外 (1)（第 40 図）
図版 34 １．包含層出土遺物　内 (2)（第 40 図）
２．包含層出土遺物　外 (2)（第 40 図）
図版 35 １．包含層出土遺物　内 (3)（第 41 図）
２．包含層出土遺物　外 (3)（第 41 図）
図版 36 １．包含層出土遺物　(4)（第 39 図）
２．包含層出土遺物　(5)
（第 24・33・40・41・43 図）

# 第１章　調査に至る経緯と経過

## 第１節　調査の経緯

一般県道矢尾今市線は、地域高規格道路境港出雲線（国道 431 号）と一般国道９号線（出雲バイパス）及び山陰自動車道を連結する道路であるとともに、広域的な地域連携に寄与するために計画された道路である。

平成 17 年 10 月 26 日に島根県出雲土木建築事務所（現：出雲県土整備事務所）から出雲市文化観光部文化財課（以下、出雲市文化財課と称す）に対して、出雲市大塚町から高岡町地内における埋蔵文化財の有無について照会があった。同年 12 月 27 日に出雲市文化財課は事業予定地内に近接して周知の遺跡である大塚遺跡が存在することから確認調査を実施し、大塚遺跡が事業地内にも広がっていることが確認されたため、12 月 28 日付けで発掘調査が必要な旨を回答した。その後、出雲市文化財課では当事業予定地内の調査について対応が困難な状況であることから、島根県教育委員会が事業を実施することとなった。平成 19 年４月から大塚遺跡の発掘調査を実施し、平成 21 年３月に報告書が刊行されている。

その後、出雲県土整備事務所から平成 20 年８月 20 日付けで高岡町から矢尾町地内における埋蔵文化財の有無について島根県教育委員会に照会があり、事業予定地内には周知の遺跡である高浜Ⅰ遺跡と下澤遺跡が存在することから遺跡の取り扱いについて協議が必要であることを同年 12 月１日付けで回答した。これを受けて出雲県土整備事務所から文化財保護法第 94 条の１の通知が提出され、島根県教育委員会では工事着手前に発掘調査が必要な旨を回答した。

上記の法的手続きに基づいて、平成 21 年度から高浜Ⅰ遺跡の発掘調査に着手し、現在、高浜Ⅰ遺跡１区・２区の現地調査が終了し、１区については平成 23 年３月に報告書が刊行されている。

第１図　高浜Ⅰ遺跡の位置

## 第２節　調査の経過

調査対象地は前回調査区（１区）の北側約 100 ｍの地点に位置する宅地跡及び水田部分で、調査対象面積は 1,600㎡である。宅地跡と水田部分との境に東西方向に延びる水路が存在していることから、前者を 2-1 区、後者を 2-2 区として調査を実施することにした。

まず始めに 2-1 区の造成土撤去を平成 26 年６月３日から行い、撤去後の６月 10 日から遺物包含層の掘削を開始した。厚さ 30 ～ 40cm で基盤層に至るが、調査区北側で火葬墓（ＳＸ０１）らしき遺構を確認したため、この部分の完掘作業を優先させて６月 19・20 日の２日間行い、墓そのものではなく火葬を行った土坑であることが判明した。遺物包含層の掘削は７月９日まで行い、陶磁器類の小片が出土している。段階確認検査の後の７月 11 日から遺構検出及び完掘作業に着手し、その結果、300 近くの柱穴と大溝（ＳＤ０２）等を検出した。柱穴は前回調査区同様に規模が大きく、完掘作業や実測等に時間を費やしたが８月 28 日に終了した。

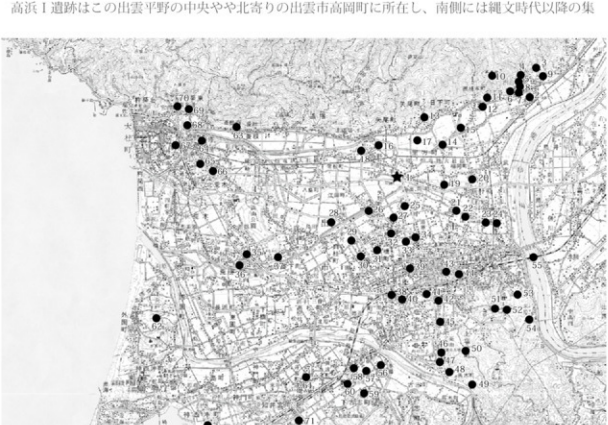
2-2 区は８月 29 日から９月 10 日まで遺物包含層掘削、９月 11 日から遺構検出及び完掘作業を行った。その結果、2-1 区とは様相が異なっており、柱穴は微量で、墓壙（ＳＸ０４・０５）や井戸跡（ＳＥ０１）等が確認された。また、調査区北寄りでは東西方向に延びる自然河道（ＳＲ０１）も確認され、底面付近の砂層から縄文土器、弥生時代前期～後期頃の土器が出土している。これらの実測や写真撮影等を行い、10 月 10 日に全ての作業が終了した。

遺物の洗浄・注記・接合等の作業は現地調査と併行して実施していたが、平成 27 年度から本格的な報告書作成作業を行い、平成 27 年度末に報告書刊行の運びとなった。

2-1 区作業風景

# 第２章　位置と歴史的環境

出雲平野は、斐伊川と神戸川の沖積作用によって形成された県内最大の平野であり、有数の穀倉地帯として知られている。約 7000 年前頃の縄文海進から徐々に沖積作用が始まり、それによって形成された自然堤防や沼沢地が至る所に広がり、現在の地形は近世に定着したと考えられている。高浜Ⅰ遺跡はこの出雲平野の中央やや北寄りの出雲市高岡町に所在し、南側には縄文時代以降の集



1 高浜Ⅰ遺跡　2 青木遺跡　3 大寺古墳群　4 平林寺山古墳群　5 脇櫛山古墳群　6 古前西北屋上横穴墓　7 古前背後横穴墓群　8 傘屋背後横穴墓群　9 大寺三蔵遺跡　10 斎ヶ巣城跡　11 東組遺跡　12 龍善寺東遺跡　13 矢尾横穴墓群　14 里方別所遺跡　15 山持遺跡　16 里方八石原遺跡　17 里方本郷遺跡　18 高浜Ⅱ遺跡　19 高岡遺跡　20 荻杼Ⅱ遺跡　21 中野西遺跡　22 中野美保遺跡　23 中野清水遺跡　24 大津町北遺跡　25 大塚遺跡 26 矢野遺跡　27 小山遺跡第３地点　28 井原遺跡　29 白枝荒神遺跡　30 小畑遺跡　31 渡橋沖遺跡　32 小山遺跡第１地点　33 蔵小路西遺跡　34 姫原西遺跡　35 白枝本郷遺跡　36 余小路遺跡　37 壱丁田遺跡　38 天神遺跡　39 海上遺跡　40 高西遺跡　41 藤ヶ森遺跡　42 角田遺跡　43 塚山古墳　44 大念寺古墳　45 上塩冶築山古墳　46 上塩冶地蔵山古墳　47 半分古墳　48 三田谷Ⅰ遺跡　49 光明寺古墳群　50 上塩冶横穴墓群　51 菅沢遺跡　52 長者原廃寺　53 西谷墳墓群　54 長廻遺跡　55 斐伊川鉄橋遺跡　56 古志本郷遺跡　57 田畑遺跡　58 下古志遺跡　59 妙蓮寺山古墳　60 宝塚古墳　61 知井宮多聞院遺跡　62 上長浜貝塚　63 菱根遺跡　64 原山遺跡　65 南原遺跡　66 中分貝塚　67 鹿蔵山遺跡　68 五反配遺跡　69 真名井神社銅戈出土地　70 出雲大社境内遺跡　71 浅柄北古墳　72 間谷東古墳　73 北光寺古墳　74 浅柄Ⅱ遺跡　75 山地古墳

第２図　高浜Ⅰ遺跡の位置と周辺の遺跡

落遺跡である矢野遺跡や小山遺跡を中心とする四絡遺跡群が存在する地域でもあり、出雲平野の形成過程を研究していく上でも重要な地域の一つとなっている。

**縄文時代**

旧石器時代の遺跡は出雲平野西端の多伎町砂原遺跡において三瓶火山灰層に挟まれた土層中から石器と思われる石が出土し、日本最古級の遺跡ではないかと注目されている。縄文時代早期になると菱根遺跡や上長浜貝塚などの遺跡が確認されるようになる。前者は「菱根式」と呼ばれる当地域における早期末の繊維土器の標式遺跡として著名である。前・中期の遺跡は確認事例が明確ではなかったが、山持遺跡から前・中期の土器が出土しており注目される。後期になると斐伊川・神戸川流域で遺跡の増加が認められるようになる。その事例として三田谷Ⅰ遺跡では土器の他にドングリピットや丸木舟などが確認され、当遺跡に近い矢野遺跡では縄文後期後葉の福田KⅢ式・元住吉山Ⅱ式が採集されている（池田・足立 1987）。続く縄文時代晩期には矢野遺跡のほか、善行寺遺跡や蔵小路西遺跡から当該期の遺物が出土しており、蔵小路西遺跡では縄文晩期の火処が確認されている。このように縄文時代晩期までには出雲平野中央部までは確実に陸地化していたものと考えられる。

**弥生時代**

弥生時代になると平野全域に集落が形成され始め、前期には縄文時代から続く矢野遺跡や原山遺跡などに加え、三田谷Ⅰ遺跡や蔵小路西遺跡などが認められる。遺跡の性格が判明する事例は乏しいが、原山遺跡では前期の配石墓が確認されており、出雲部における砂丘立地の弥生初期墓制として注目される（村上・川原 1979）。中期に入ると遺跡は急増し、神戸川によって生成された自然堤防上には古志本郷遺跡、白枝荒神遺跡、天神遺跡、下古志遺跡、知井宮多聞院遺跡などが知られ、環濠集落の様相を呈した大規模な集落も出現してくる。後期になると中期に形成された多くの集落が継続して営まれ、遺物量も大幅に増加する傾向にある。平野中央部や北部では姫原西遺跡、青木遺跡、山持遺跡など新たな遺跡も加わり、山持遺跡では吉備系特殊土器やその模倣品が確認されているほか、西部瀬戸内系の土器や朝鮮半島系楽浪土器も出土するなど、他地域との交流が活発に行われていたことを窺い知ることができる。

墳墓遺跡では平野南側の丘陵上には最大級の四隅突出型墳丘墓である西谷３号墓をはじめとする西谷墳墓群が出現し、平野低地部の中野美保遺跡や青木遺跡からも中小規模の四隅突出型墳丘墓や方形貼石墓が築造されていることが明らかとなった。特に青木遺跡では最古形式の四隅突出型墳丘墓が築造されていることから、この墓制の起源論に一石を投じるものであり、今後の議論の展開が期待されよう。また、三田谷Ⅰ遺跡では県内初である方形周溝墓が確認されている。

**古墳時代**

古墳時代の集落は基本的には弥生時代から継続して営まれているが、古志本郷遺跡のように前期には大溝への土器廃棄後、衰退する事例が多く、出雲平野の集落は前期以降減少する傾向が認められるようであり、中・後期になると三田谷Ⅰ遺跡や中野美保遺跡など数例しか知られていない。また、御崎谷遺跡では明確な集落跡は検出されていないが、中期を中心とする多量の遺物が出土していることから、この地域に古墳時代中期頃を中心とする大規模な集落が営まれていたものと推測される。

このように出雲平野の集落の様相は不明瞭な部分が多いが、古墳の様相はある程度明瞭といえる。

前期から中期初頭の古墳としては今まで斐伊川左岸の大寺１号墳、神西湖東岸の山地古墳が知られる程度であったが、ここ近年の発掘調査で浅柄Ⅱ古墳、問谷東古墳、浅柄北古墳の３例が新たに増加した。当遺跡の北東に位置する大寺１号墳は出雲平野の前期古墳では唯一の前方後円墳であり、その築造場所も含め、その成立背景が注目されるところである。その他の古墳はすべて出雲平野南麓の神西湖東岸地域で発見されており、山地古墳、浅柄Ⅱ古墳、問谷東古墳は埋葬施設に礫床を備えている。山地古墳は径 24 mの円墳で、筒形銅器や銅鏡など豊富な副葬品を有する古墳である。問谷東古墳は奥才型木棺と称される棺底礫敷の組合式木棺を有する古墳で、奥才型木棺の分布は北部九州から北近畿に限定されていることから、海上交通を中心とした広域な地域間交流が存在していたことが窺える。このことは神西湖が「神門水海」の名残であり、入海という当地域の地理的特性が活かされた結果といえよう。

中期中葉には神西湖東岸の南側丘陵上に出雲平野を見下ろすように北光寺古墳が築造される。全長約 70 mと中期では出雲部最大の前方後円墳である。

後期になると平野中央部に出雲最大の前方後円墳である大念寺古墳や上塩冶築山古墳、地蔵山古墳などに代表される出雲西部で最大クラスの古墳が築かれるようになり、有力首長の存在が窺える。当地域周辺では神戸川左岸地域で妙蓮寺山古墳や放れ山古墳などが存在し、大念寺古墳などの大首長クラスに次ぐものとして位置づけられている。後期後葉以降は横穴墓の造墓が盛んに行われ、平野南部の丘陵には上塩冶横穴墓群や神門横穴墓群などの大規模な横穴墓群が営まれるようになる。

**奈良・平安時代**

奈良時代の出雲平野は律令制下の行政区画でいう「神門郡」と「出雲郡」に編成され、当地域は神門郡八野郷に属する。出雲平野の官衙関連遺跡は近年の発掘調査の成果により、神門郡家は古志本郷遺跡が、出雲郡家の関連施設として斐川町後谷Ⅴ遺跡が比定されている。この他に天神遺跡や三田谷Ⅰ遺跡、小山遺跡などが神門郡では官衙関連遺跡である可能性が指摘されている。出雲郡では多量の墨書土器や木簡の出土した青木遺跡を出雲郡家の出先機関的機能を備える遺跡と評価する見方もある（佐藤 2004）。集落としては建物跡や多量の遺物が確認されている九景川遺跡や多数の掘立柱建物跡が検出された浅柄遺跡などが知られている。寺院跡としては、『出雲国風土記』記載の新造院に比定される神門寺境内廃寺や長者原廃寺が知られている。墳墓としては火葬骨を納めた石櫃が出土した光明寺３号墓のほか、石製骨臓器を納めた小坂古墳、浅山古墓、菅沢古墓などが知られている。

**中世**

中世の遺跡としては、幅約４mの堀や掘立柱建物跡、12 世紀～ 15 世紀の陶磁器類が見つかった蔵小路西遺跡、総柱の掘立柱建物跡やミニチュア五輪塔が確認された渡橋沖遺跡があり、前者は朝山氏または塩冶氏の居館と推定されている。この他に居館等の可能性のある遺跡として高浜Ⅰ遺跡（１区）が知られているが、特殊な木製品や将棋の駒とともに最古の将棋盤が出土していることも注目される。墳墓としては、青磁碗・皿を副葬する荻杼古墓や木棺墓が確認された姫原西遺跡、余小路遺跡、蔵小路西遺跡など当時の墓制の様相を窺うことができる貴重な資料がある。

室町時代から戦国時代にかけて多数の山城が築かれるようになり、当遺跡の北東の丘陵上には戦国時代に市内最大規模である山城の鳶ヶ巣城が築かれ、尼子氏復興戦の際には毛利氏による高瀬城攻略拠点となったことで著名である。

以上のように、本書掲載遺跡の所在する出雲平野中央付近を中心とした地域は縄文時代以降重要な地域であったことが窺える。特に中世には朝山氏か塩冶氏関係の居館と推測される遺跡や当時の様相を窺い知ることができる遺跡が確認されていることは、この地域の特徴を表しているとも考えられ、今後の研究の進展が期待される。


〔参考文献〕

島根県教育委員会『出雲・上塩冶地域を中心とする埋蔵文化財調査報告』1980年

島根県教育委員会『蔵小路西遺跡　一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書2』1999年

島根県教育委員会『三田谷Ⅰ遺跡 Vol. 3　斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅸ』2000年

島根県教育委員会『古志本郷遺跡Ⅴ　斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅥ』2003年

島根県教育委員会『中野美保遺跡　一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書4』2004年

島根県教育委員会『山陰自動車道鳥取益田線（宍道～出雲間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2』2005年

島根県教育委員会『青木遺跡Ⅱ　国道431号道路改築事業（東林木バイパス）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ』2006年

島根県教育委員会『九景川遺跡　一般県道出雲インター線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ』2008年

島根県教育委員会『間谷東古墳　一般県道出雲インター線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ』2008年

島根県教育委員会『浅柄北古墳　一般県道出雲インター線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ』2009年

島根県教育委員会『山持遺跡 Vol. 6　国道431号道路改築事業（東林木バイパス）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書8』2010年

島根県教育委員会『高浜1遺跡　一般県道矢尾今市線地方道路交付金事業（大塚工区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2』2011年

出雲市教育委員会『山地古墳発掘調査報告書』1986年

出雲市教育委員会『小浜山横穴墓群Ⅰ』1995年

出雲市教育委員会『上長浜貝塚』1996年

出雲市教育委員会『遺跡が語る古代の出雲』1997年

出雲市教育委員会『天神遺跡第7次発掘調査報告書』1997年

出雲市教育委員会『光明寺3号墓・4号墓』2000年

出雲市教育委員会「浅柄遺跡」2000年

鹿島町教育委員会『奥才古墳群第8支群』2002年

近藤　正「出雲・荻抒古墓発見の将軍器」『考古学雑誌』54-3　1969年

池田満雄・足立克己「出雲市矢野遺跡出土の縄文土器」『島根考古学会誌』第4集　1979年

村上　勇・川原和人「出雲・原山遺跡の再検討」『島根県立博物館調査報告』第2冊　1979年

佐藤　信「出土文字資料が語るあたらしい古代史像」『出土文字資料が語る古代の出雲平野　平成15年度島根県埋蔵文化財調査センター講演会資料』島根県埋蔵文化財調査センター2004年

島根県古代文化センター『大寺1号墳発掘調査報告』2005年

# 第３章　高浜Ｉ遺跡

## 第１節　調査の概要

高浜Ｉ遺跡は県道斐川・出雲大社線の北側から一畑電鉄大社線の南側にかけて広範囲に広がる遺跡である。今回の調査箇所は現在の県道矢尾今市線から市道高浜 97 号線までの間に存在する宅地跡と水田部分で、調査対象面積は 1,600㎡であった。調査の経過の中で述べたとおり、調査地の中央には東西に延びる水路が存在するため、水路から南を 2-1 区、北を 2-2 区として調査を実施した。

第７・８図に示したように造成土を除く堆積土は耕作土と遺物包含層に大別され、2-1 区は明褐色土（第９層）、2-1 区では淡灰褐色土（第２層）が遺物包含層である。耕作土の厚さは約 40cm、包含層は約 20cm を測り、包含層の下層には遺構面である黄褐色土の硬い基盤層が存在している。遺構検出面の標高は約 3.5 m前後を測る。

2-1 区では建物跡を含む 300 以上の柱穴群と火葬に使用したとみられる土坑（ＳＸ０１）及び大溝（ＳＤ０２）等を検出した。柱穴は径、深さともに１m前後の大型なものを多数検出したが、建物跡として確認できたものは僅か６棟であった。柱穴密度が高く、多くの柱穴が切り合っている状況から判断すれば多数の建物が建て替えられて存在していたことが推察できるものの、それを復元するまでには至らなかった。確認できた建物跡は２間×３間以上のものが大半を占め、出土遺物は少ないが 16 世紀～ 17 世紀を中心とする建物跡である。ＳＸ０１は調査区北寄りで検出したもので、土坑内部の状況から墓そのものではなく火葬に使用した遺構と推測される。ただし、この火葬骨を埋葬した墓については調査区内では確認されていない。ＳＤ０２は 2-1 区から 2-2 区まで続いている大溝である。周辺の建物の配置状況から判断して、建物等を区画する溝の可能性が高く、出土遺物から 17 世紀頃まで溝として機能していたと考えられる。

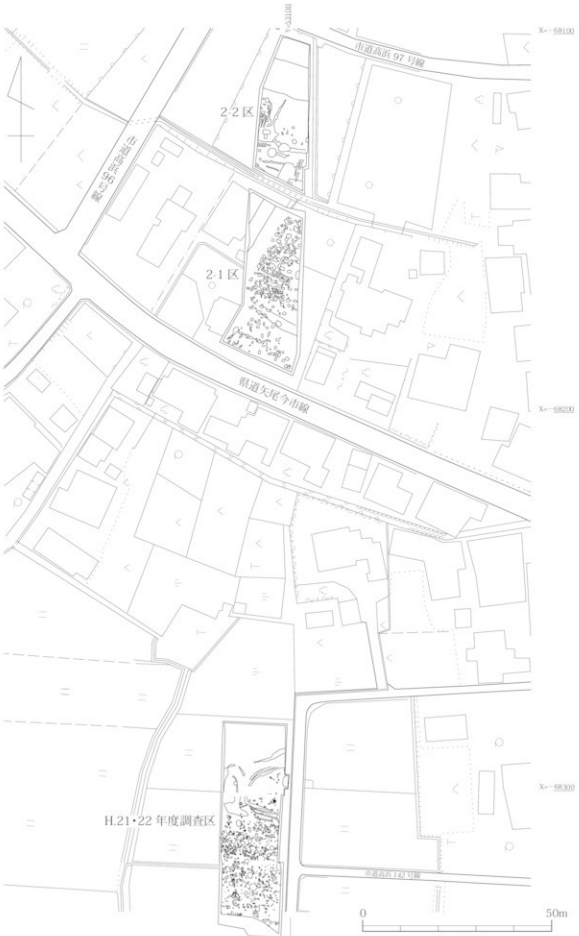
2-2 区では前述したＳＤ０２と井戸跡（ＳＥ０１）や墓（ＳＸ０４・０５）２基、自然河道（ＳＲ０１）等を検出した。ＳＥ０１はＳＤ０２の西側で検出した 16 世紀頃の石積みの井戸跡である。ＳＸ０４は調査区の西壁側に位置し、他の土坑と切り合って確認された。15 世紀頃の墓と考えられ、木棺は無く、底面には脆くなった骨片と折敷、土師質土器が検出されている。ＳＸ０５も同様な状況を示していたが土器は検出されていない。調査区の北側では東西方向に延びる状況でＳＲ０１が確認され、底面の砂礫層から縄文時代～古墳時代前期の土器が出土している。

遺物は上述した遺構のほかに遺物包含層から土師質土器、陶磁器、古銭、石製品等が出土している。全体的に小片が多く認められ、時期的には 14 世紀～ 17 世紀頃のものが混在しているが、出土量的には遺構の年代とほぼ同時期の 17 世紀前後のものが大半を占めている。

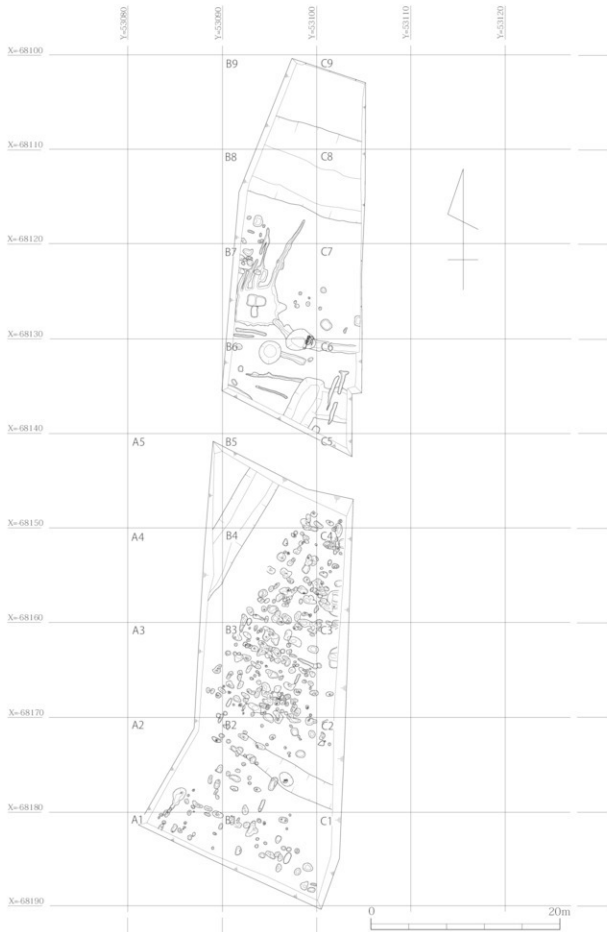
## 第２節　遺構の調査

### １．建物跡

建物跡は 2-1 区で集中して検出され、明瞭な建物跡として確認できたものは６棟である。前述したとおり多数の柱穴が切り合って検出されており、建物跡として復元可能な柱列もいくつか存在しているが、柱穴間距離や配列等の微妙な差から判断して、ここでは敢えて建物跡としては復元しなかった。



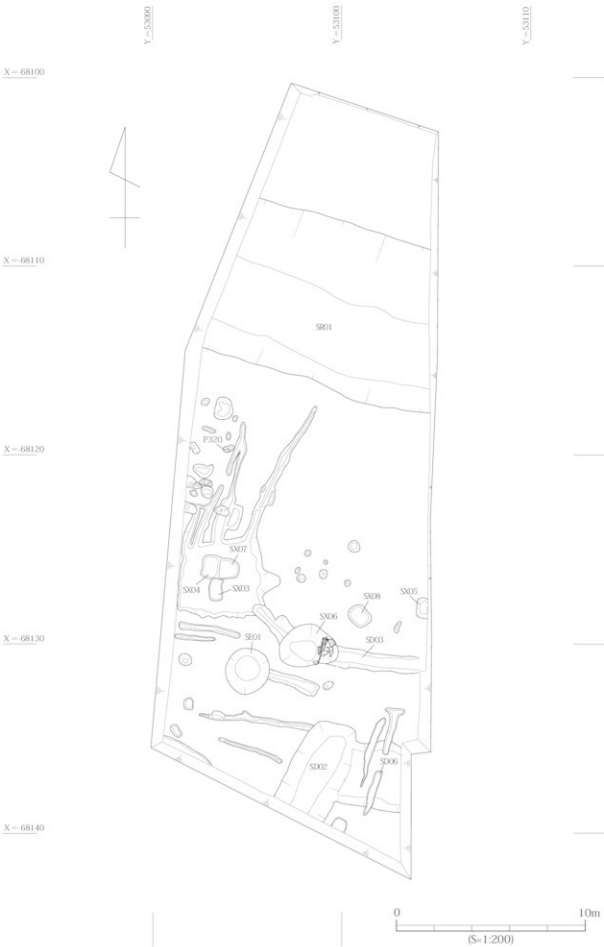

第３図　高浜Ⅰ遺跡調査区配置図


Y=53080
Y=53090
Y=53100
Y=53110
Y=53120
X=68100
X=68110
X=68120
X=68130
X=68140
X=68150
X=68160
X=68170
X=68180
X=68190
B9
C9
B8
C8
B7
C7
B6
C6
A5
B5
C5
A4
B4
A3
B3
C3
A2
B2
C2
A1
B1
C1
0
20m
(S=1:400)

第 4 図　調査区全体図

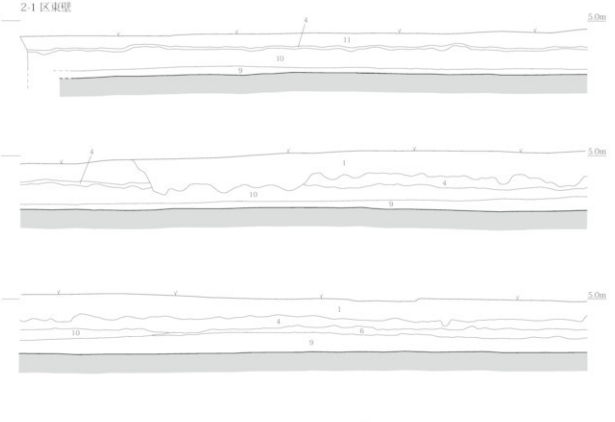
Y=53080
Y=53100
X=68150
X=68160
X=68170
X=68180
X=68190
Y=53090
SD02
P274
P271
SK08
P297
SX02
SX01
SK06
P242
SK07
P212
SK05
P178
SB05
SB06
P7
SB04
P144
P119
SB01
P1
SB03
P78
P3
SD01
SB02
0
10m
(S=1:200)

第5図　2-1区全体図

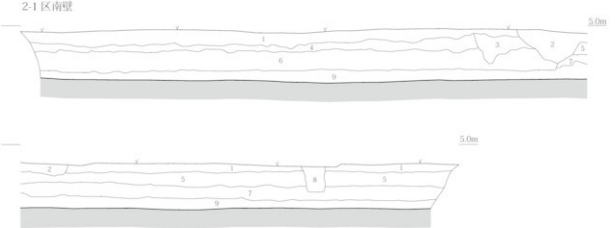

Y=53090
Y=53100
Y=53110
X=68100
X=68110
X=68120
X=68130
X=68140
SR01
P320
SX07
SX04
SX03
SX08
SX05
SX06
SE01
SD03
SD02
SD06
0
10m
(S=1:200)

第６図　2-2区全体図

2-1 区東壁



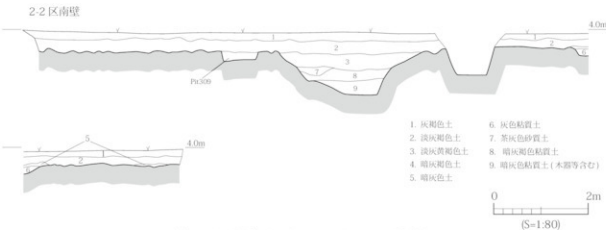

2-1 区南壁




1. 造成土 1
2. 撹乱
3. 撹乱
4. 暗茶褐色土
5. 明茶褐色土
6. 黄茶褐色土
7. 茶褐色土
8. 撹乱
9. 明褐色土
10. 黄茶褐色土
11. 造成土 2

0 2m
(S=1:80)

第 7 図　調査区セクション図 (2-1 区東壁・南壁 )




第８図　調査区セクション図 (2-2 区南壁 )

**ＳＢ０１（第９図）**

ＳＢ０１は調査区中央の東寄りで検出した２間×３間以上の建物跡である。建物の規模は桁行 5.4 m、梁行 3.2 m、柱穴間距離は桁行 1.8 m前後、梁行 1.4 m前後を測る。主軸方向はＮ－87°－Ｗとなっている。

柱穴の平面形態は楕円形を呈するものが多く、中には不整形のものや他の柱穴と切り合っているものも認められる。規模は長軸 0.8 ～ 1.5 m、短軸 0.5 ～ 0.9 m、深さ 30 ～ 70cm を測る。Ｐ５・６には柱根が遺存し、他の柱穴には柱痕跡の認められるものも存在する。

時期については遺物が出土していないため特定できないが、ＳＢ０４と重複していることから時期差が認められるものの、その前後関係を明らかにすることはできなかった。また、他の建物跡と主軸方向が若干異なることも時期差を示しているものと推察される。

**ＳＢ０２（第１０図）**

ＳＢ０２は調査区南寄りで検出した３間以上×２間以上の建物跡である。建物の規模は桁行 6.0 m、梁行 5.5 m、柱穴間距離は桁行２m前後 、梁行 2.5 mを測る。主軸方向はＮ－66°－Ｗとなっている。

柱穴の平面形態は基本的には楕円形を呈するが、梁行側の柱穴は南北方向に主軸をもつ長楕円形を呈している。規模は長軸 0.9 ～ 1.9 m、短軸 0.4 ～ 0.7 m、深さ 40 ～ 90cm を測る。Ｐ１には柱根が遺存し、他の柱穴は柱痕跡が認められる。

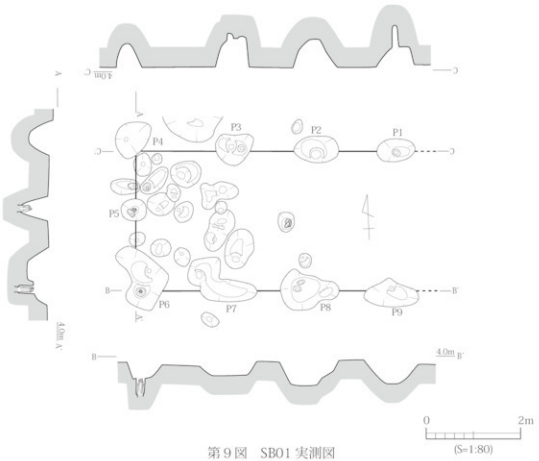
時期については遺物が出土していないため特定できなかった。

**ＳＢ０３（第１１図）**

ＳＢ０３はＳＢ０２の北側でＳＤ０１を切る状態で検出された２間×１間の小規模な建物跡である。建物の規模は桁行４m、梁行 1.6 m、柱穴間距離は桁行２m、梁行 1.6 mを測る。主軸方向はＳＢ０２とほぼ同じ方向を指している。

柱穴の平面形態は楕円形状を呈し、切り合っているものも認められる。長軸 0.8 ～ 1.3 m、短軸 0.3 ～ 0.7 m、深さ 20 ～ 80cm を測る。Ｐ１・２には径 15cm 程度の柱根が遺存していた。Ｐ４の底面には長さ 30cm、幅 15cm の石が確認されたが、Ｐ１・２の状況や建物の規模から判断すると礎石の可能性は低いであろう。

遺物はＰ１・３から土師質土器の坏が出土している。遺物から 16 世紀頃を中心とする建物であったと推察されるが、他の建物跡と比較して小規模であることから居住用施設と考えるより、倉庫等




第９図　SB01 実測図

の付属的施設と理解しておきたい。

**ＳＢ０３出土遺物（第 15 図１・３）**

１・３がＳＢ０３出土の土師質土器である。１・３ともに外方に大きく広がる体部を有するものであるが、１の方が器高が高く、３の底部には糸切り痕が若干残っている。

**ＳＢ０４（第 12 図）**

ＳＢ０１の西隣で重複して検出された２間×３間の建物跡である。建物の規模は桁行 5.8 m、梁行 4.0 m、柱穴間距離は桁行、梁行とも２m前後を測る。主軸方向はＳＢ０２とほぼ同じ方向を指している。

柱穴の平面形態は他の建物跡同様、楕円形を呈するものが多い。長軸 0.7 ～ 1.8 m、短軸 0.4 ～ 0.8 m、深さ 40 ～ 80cm を測り、柱痕跡の認められる柱穴も存在する。

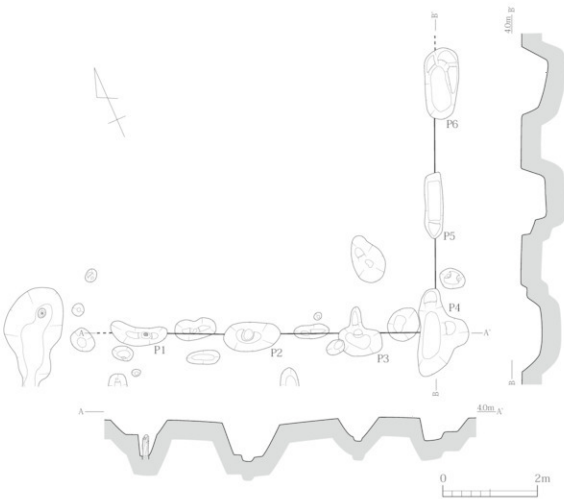
遺物が出土していないため時期については特定できなかった。

**ＳＢ０５（第 13 図）**

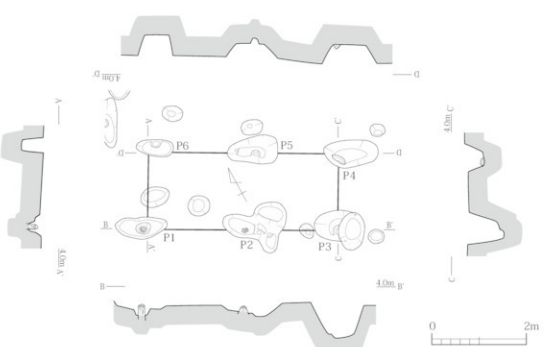
ＳＢ０５はＳＢ０１・０４の北側で検出された２間×３間以上の建物跡である。建物の規模は桁行７m以上、梁行 4.6 m、柱穴間距離は桁行 2.2 mm前後、梁行 2.3 mを測る。主軸方向はN－72°－Wとなっている。

柱穴の平面形態は基本的には楕円形を呈しているが、他の柱穴と切り合って不整形なものも認められる。長軸 1.1 ～ 1.5 m、短軸 0.8 ～ 1.6 m、深さ 60 ～ 80cm を測り、柱痕跡の認められる柱穴も存在する。

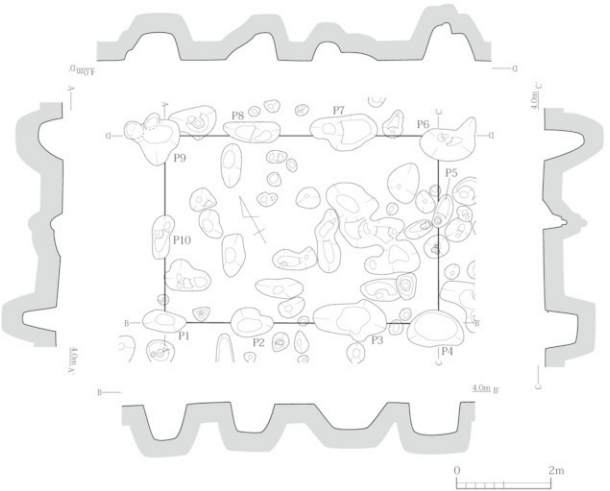
遺物を伴っていないため時期については特定できなかった。




第 10 図　SB02 実測図




第 11 図　SB03 実測図




第 12 図　SB04 実測図

**ＳＢ０６（図 14 図）**

ＳＢ０４の西隣で重複して検出された１間×５間以上の建物跡である。建物の規模は桁行 10 m、梁行３m、柱穴間距離は桁行２m前後、梁行３mを測る。主軸方向はＮ－29°－Ｅとなっている。

柱穴の平面形態は基本的には楕円形を呈しているが、円形や不整形なものも認められる。長軸 0.5 ～ 1.5 m、短軸 0.4 ～ 1.1 m、深さ 40 ～ 60cm を測り、柱痕跡の認められる柱穴も存在している。

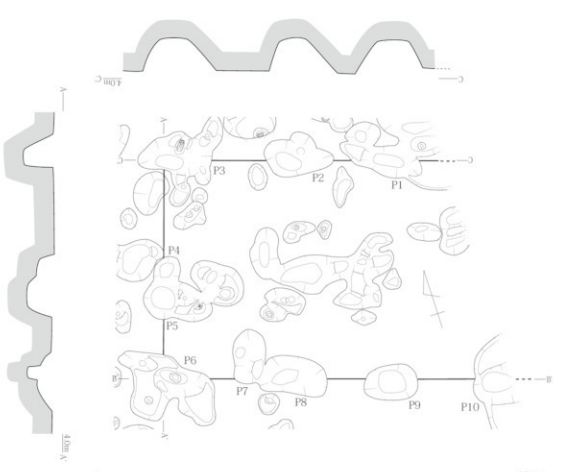
遺物はＰ７から青磁碗が出土しており、16 世紀後半頃の建物と推測される。

**ＳＢ０６出土遺物（第 15 図 12）**

体部は内湾気味にのび口縁端部が外方に屈曲する青磁碗である。

**その他柱穴出土遺物（第 15・16 図）**

建物跡を含めて柱穴から出土した土器は少なく、そのうち実測できたものを掲載した。2・4 は土師質土器である。２は体部は低く口縁端部が外方へやや屈曲する皿で、４は体部が直線的にのびる坏である。５は 14 世紀中頃～後半の備前焼の擂鉢である。６は瀬戸・美濃系の折縁皿で内外面に輪ドチ痕が残り、内面にへら彫りの菊花文を施している。大窯４期末と考えられる。７は瀬戸・美濃系の皿であるが釉薬が二次焼成を受けて白化している。８・９は肥前系の皿である。８は折縁形皿、９は端反形皿で 17 世紀前半代と考えられる。10 は朝鮮陶器の灰青沙器皿で見込みと畳付に砂目がある。11 ～ 13 は外反する口縁部を有する青磁碗である。14 は肥前系の碗である。15 は中国青花の碗で外面に連弁文、見込みに花弁文が施される。16 は茶臼と考えられる石製品で




第 13 図　SB05 実測図

あるが残存部分が少なく断定しがたい。17・18 は砥石であり、17 は全面研磨されている。19 ～ 16 図 3 は柱根である。16 図 1 ・ 2 は先端を尖るように加工されているが、その他は平らに近い。また、15 図 20・16 図 1 ・ 3 は鼻繰らしき孔が施されている。

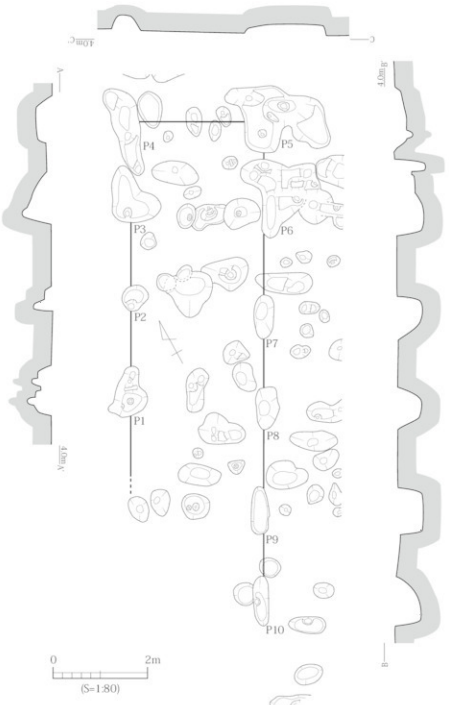
**2．溝状遺構**

溝状遺構は 2-1 区で 2 条、2-2 区で約 10 条検出した。2-1 区のものはその形態や規模から推察すると建物等の区画溝の可能性が高く、上述した建物跡の大半がこの大溝の主軸に沿っていることからも想定される。

**ＳＤ０１（第５図）**

2-1 区のやや南寄り、ＳＢ０３と重複して検出された溝である。規模は長さ約 13 m、幅 2 ～ 2.5 mを測り、深さは約 20cm と浅い。上層の包含層が覆っていたため時期を判断することは不可能であったが、ＳＢ０２のＰ６やＳＢ０３との切り合い関係から、ＳＤ０１が先行するものと判断される。

その用途については屋敷地境の溝の可能性も考えられるが判然としない。




第 14 図　SB06 実測図

**ＳＤ０２（第 17 図）**

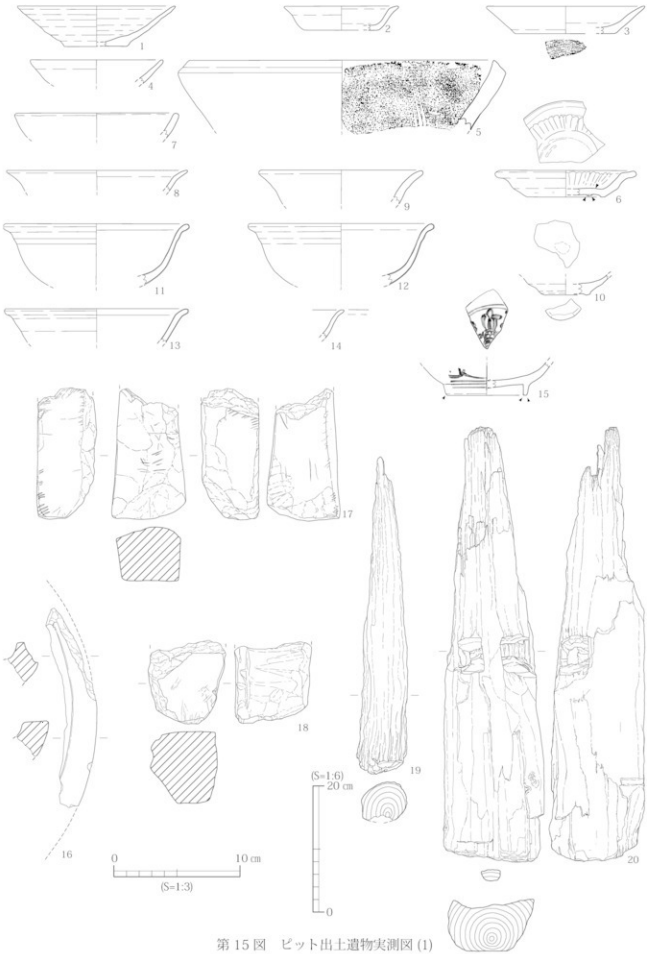
2-1 区から 2-2 区にかけて延びる状況で確認された大溝である。大溝の東側には建物跡、北西側には墓や井戸跡等が存在することから、これらを区画するための溝の可能性が高いと推測される。

2-1 区では北壁から南東方向に延びて西壁に至り、調査区外まで延びており、その範囲や形態については不明と言わざるを得ない。2-2 区では南壁から北に５ｍ延びた地点で途切れている状況から判断すると、ここが溝の北端を示しているものと考えられる。

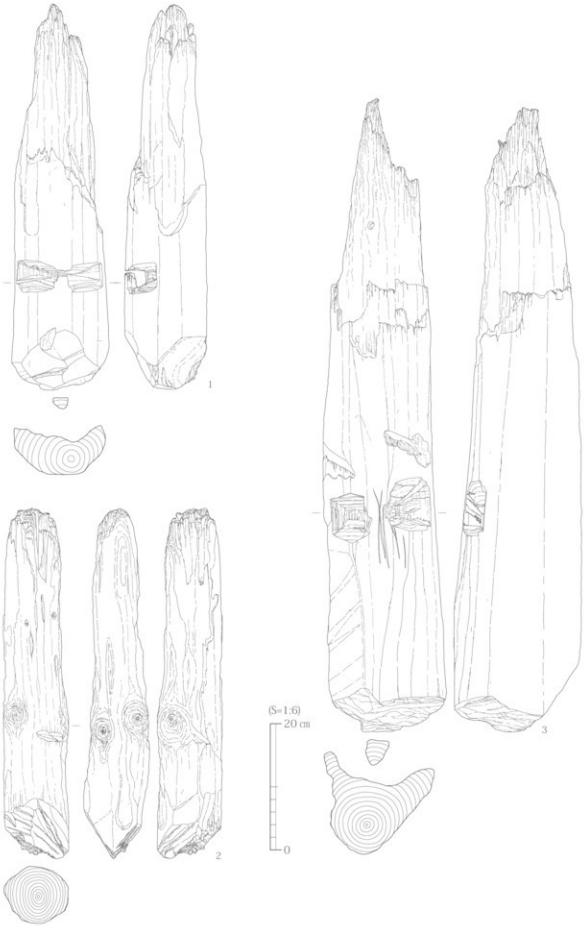
確認できた規模は長さ約 25 ｍ、幅約４ｍ、深さ約 90cm を測る。覆土は暗青灰色土、暗茶褐色土、暗黄灰色土の順で堆積しており、各層から遺物が出土しているが、特に底面の暗青灰色土からの出土が大半を占め、陶磁器類の他に漆器碗を含む木製品や石臼等が出土している。

遺物は 14 世紀中頃～ 17 世紀初頭のものが混在しており、その大半は 17 世紀前後のものが占めることから、この時期までは区画溝として機能していたものと推察される。

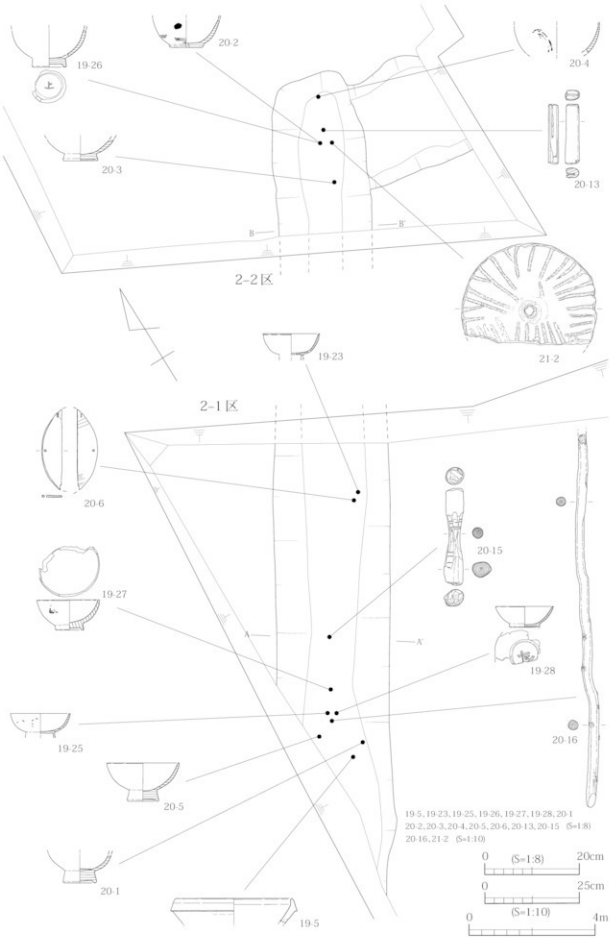
また、北端の状況を観察すると東壁に向かって幅 3.5 ｍ、深さ約 20cm の浅い溝が付属している。これがＳＤ０２と同時に機能していたかは定かでない。ただ、方向や規模等から見るとＳＤ０１に類似することからみれば、ＳＤ０１と同時期頃に屋敷地境の溝として機能していた可能性も考えられる。



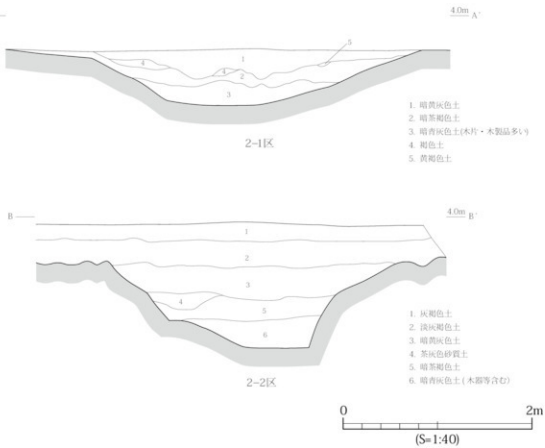

第 15 図　ピット出土遺物実測図 (1)




第 16 図　ピット出土遺物実測図 (2)




第17図　SD02平面図




第18図　SD02セクション図

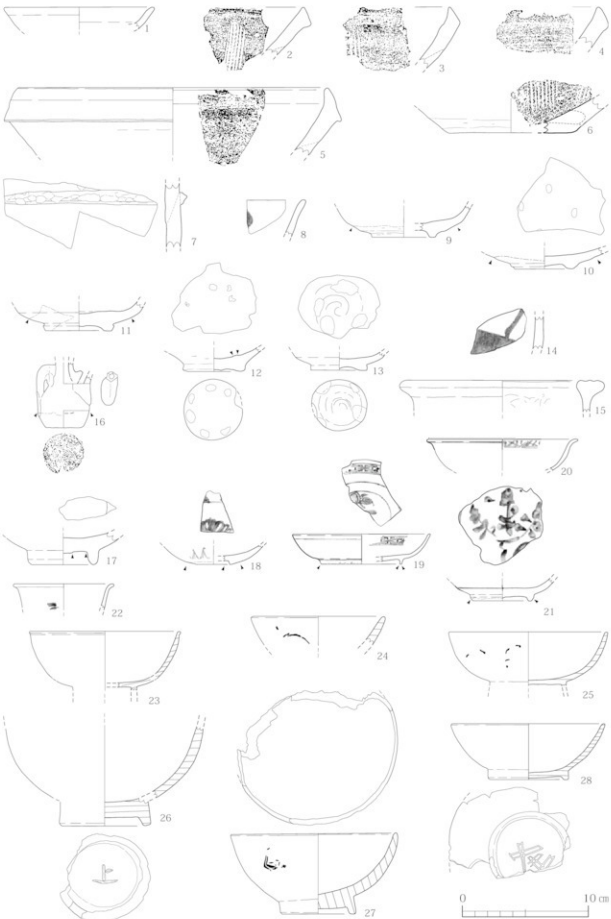
**ＳＤ０２出土遺物（第１９～２１図）**

**（１）土師質土器・陶磁器類（第１９図１～２２）**

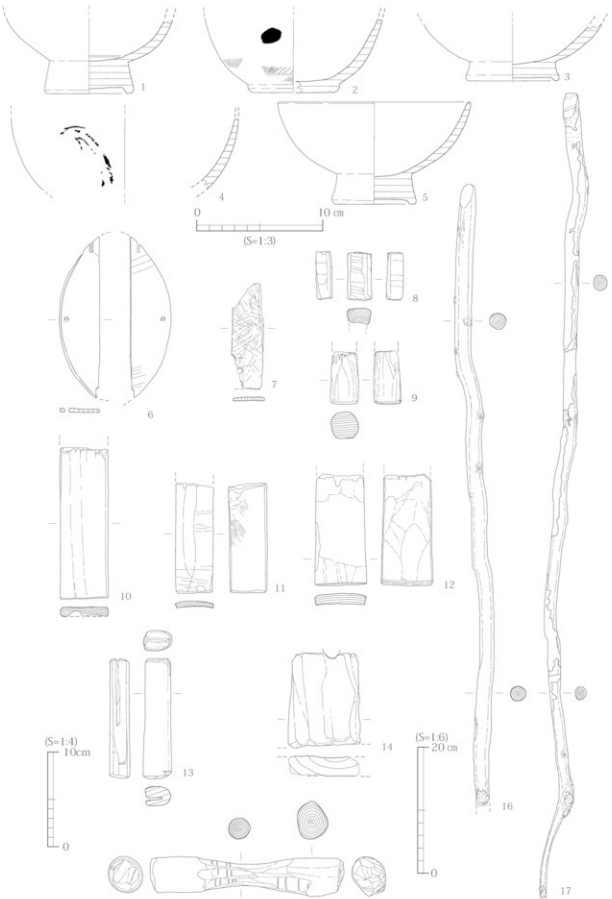
第１９図１は土師質土器の皿で体部は外方に短く立ち上がる。２～６は備前焼擂鉢の口縁部及び底部である。擂鉢の編年によれば２～４はⅣＡ－１、５はⅣＡ－２に位置づけられる。７は備前焼の甕で体部外面に貼り付け突帯を持つ。８～１１・１４～１６は肥前系陶器、１２・１３は朝鮮系陶器である。８は端反形碗で外面に鉄絵が施されている。九陶Ⅰ－２期に位置づけられる。９～１１は皿である。１２・１３は灰青沙器皿で、１２は見込みに４箇所、高台に６箇所の目跡、１３は見込み及び高台に４箇所の砂目がある。１４は浅丸鉢で内面には鉄釉が柄杓掛けされ、二彩もしくは三彩が施されている。１５は鉄釉壺で口縁端部に２条の浅い沈線を施し、内面には同心円状の当て具痕が残っている。１６は水注である。頸部から腰部にかけて鉄釉、腰部から底部にかけて銹釉化粧掛けされ、頸部破断面に漆継ぎ痕が認められる。１７は龍泉窯系青磁碗で内面に線彫文様らしきものが認められる。高台内に蛇ノ目釉剥ぎが施されている。１８～２１は中国青花の皿である。１８の底面は碁笥底となり、内面に捻花文、外面に波濤文が施されている。１９は口縁内面に四方襷、見込みに花樹文らしき文様、２０の口縁内面も四方襷、２１の見込みには草花文が施されている。２２は肥前系磁器の端反形小坏である。

**（２）木製品（第１９図２３～２０図）**

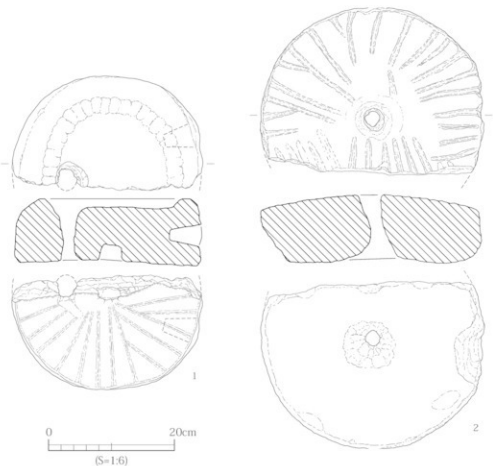
１９図２３～２０図５は漆器碗である。体部は内湾気味にのびるものが大半を占めるが、高台が低いものと分厚く高いものが認められる。１９図２３の外面は赤漆塗りであるがそれ以外は黒漆塗りとなっている。１９図２６・２８の底部外面には文字らしきものが刻まれており、２６は「上」と読め




第 19 図　SD02 出土遺物実測図 (1)




第 20 図　SD02 出土遺物実測図 (2)




第 21 図　SD02 出土遺物実測図 (3)

る。また、文様の残るものも多く認められるが遺存状況が悪く何が描かれていたのか特定できない。20 図 6・7 は曲物の底板で刃物等による擦痕が認められる。8・9 は棒状木製品で加工痕が残る。10 ～ 12・14 は板状木製品で 11 には刃物等による擦痕が認められる。13 は刀子か鎌などの柄の部分と考えられるもので、切り込みを入れて茎部を挿入する形態をとっている。15 は編具で中央付近を削っている。16・17 は細長い杭状木製品で先端を削り出して尖らせている。

**（3）石製品（第 21 図）**

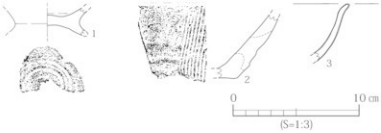
第 21 図 1・2 は石臼でいずれも半分しか残っていない。1 は上臼で物受皿は周囲に幅約 3 cm、高さ 1.5cm の縁が巡っており、縁に近接して径 3.8cm の物配り穴が開けられている。臼の側面中位には片側に方形の挽き手穴が残存している。使用されたものと思われるが、摺面は比較的平坦で、摺目溝は明瞭に認められる。中央には心棒穴が開けられている。2 は下臼で摺面はかなり使用したとみられ摺目溝が不明瞭になっている。中央には軸を固定する穴が貫通している。

**その他の溝状遺構（第 6 図）**

2-2 区から約 10 本の溝状遺構を検出しており、弓なりに延びるものや直線的に延びるものが存在する。長さは 2 ～ 10 m以上、幅は 20 ～ 90cm、深さは 10 ～ 30cm を測る。このうちＳＤ０３は後述するＳＸ０６に関連する溝と考えられる。

**その他の溝状遺構出土遺物（第 22 図）**

1・2はＳＤ０３、3はＳＤ０６から出土している。1は土師質土器の坏底部で底面に回転ヘラ切り痕が残る。2は備前焼の擂鉢底部で擂目は 8 条以上ある。3は青磁碗である。




第 22 図　SD 関係・SD03 出土遺物実測図

### 3．墓及び土坑

墓及び用途不明な土坑をＳＸとして調査を行った。全体で８基確認され、墓及びその可能性の高いものが５基存在する。また、本来は柱穴が重複しているものであっても、平面観察で重複関係が識別できなかったものをＳＫとして調査を行った。平面形態は不整形で規模も３ｍ前後のものが大半を占め、遺物が出土したものについて遺物のみ掲載することにした。

**ＳＸ０１（第 23 図）**

ＳＸ０１は 2-1 区北寄りでＳＸ０２に切られる状態で検出した墓関係の土坑である。平面形態は隅丸の長方形状を呈しており、長軸 90cm、短軸 70cm、深さ 17cm を測る。土坑内部には多量の炭・焼土とともに火葬されたと考えられる骨片が少量残存しており、北壁と南壁の一部が焼土化している。また、南壁近くには焼痕の認められる長さ約 30cm、幅約 26cm、厚さ 15cm の多角形状の石が置かれていた。

骨片の残存量から判断すると、火葬された骨は取り上げられたものと考えられ、墓そのものではなく火葬に使用された遺構と推測される。時期については覆土上面出土土器から 16 世紀頃と考えられる。ただし、この火葬骨を埋葬した墓については調査区内では確認されていない。

**ＳＸ０２（第 23 図）**

ＳＸ０２はＳＸ０１を切っている土坑である。他の柱穴と切り合っていると考えられたが、掘削前の平面観察では重複関係が識別できず、一つの土坑として調査を行ったため、平面形は不整形となっている。規模は長軸 1.4 m、短軸 1.2 m、深さ 30 ～ 60cm を測り、西寄りで柱根が認められている。

内部からは土師質土器の破片１点と古銭１枚が出土しているが墓とは断定しがたく、時期についてはＳＸ０１を切っていることからみれば０１より後出するものである。

**ＳＸ０１・０２出土遺物（第 24 図）**

１・４が０１、２・３・５が０２から出土している。１は土師質土器の坏底部で、外面に回転糸切り痕が残っている。２は土師質土器の皿口縁部である。３は銅銭と考えられる。４は置石で焼痕が認められる。５は底面が平坦に加工されている柱根である。

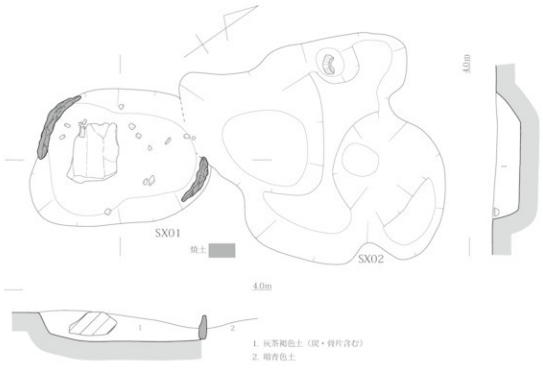
**ＳＸ０３（第 25 図）**

2-2 区西壁寄りで溝状遺構の下層に位置しており、ＳＸ０４・０７を切る状態で検出された。平面形態は隅丸長方形状を呈しており、規模は長軸 1.2 m、短軸 0.7 m、深さ約 15cm を測る。覆土は暗黄褐色土で上面から土師質土器１点が出土しているが、内部から遺物及び骨片等の出土は認められなかった。

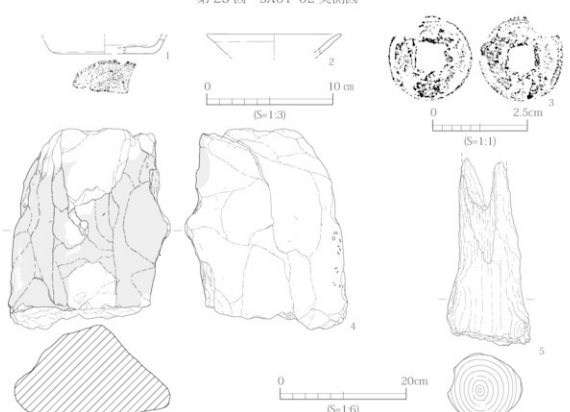
時期については覆土上面の土器から 15 世紀後半頃と考えられ、性格については墓であった可能性も高い。

**ＳＸ０４（第 25・26 図）**

ＳＸ０３・０７と重複して検出された墓である。平面形態は隅丸方形状を呈しており、規模は長

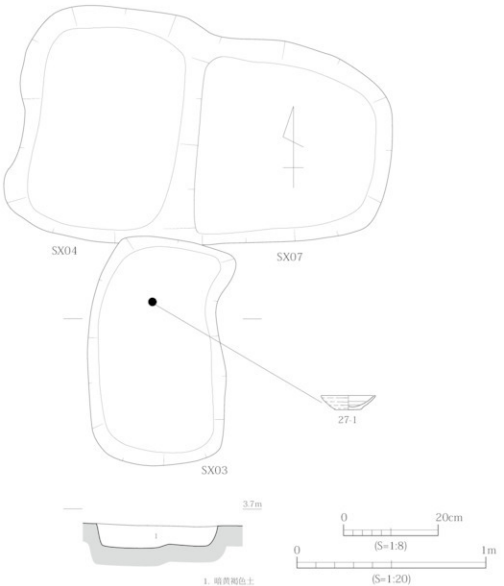



第 23 図　SX01・02 実測図




第 24 図　SX01・02 出土遺物実測図

軸 1.25 m、短軸 1 m、深さ 40cm を測る。覆土は暗灰色土や黄灰色粘質土などが混在して堆積している。底面南西寄りに土師質土器の坏 1 点と折敷底板、中央西寄りに折敷の側板、東寄りで非常に脆くなった骨片が確認されたが、木棺の痕跡は認められなかった。




第 25 図　SX03･04･07 実測図

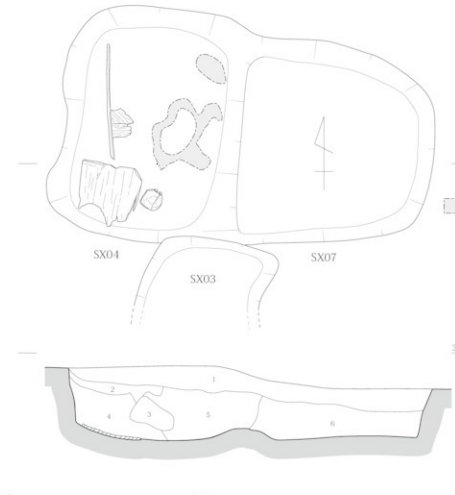
年代については切り合い関係からＳＸ０３より古く、15 世紀中～後半頃と考えられる。

**ＳＸ０３・０４出土遺物（第 27 図）**

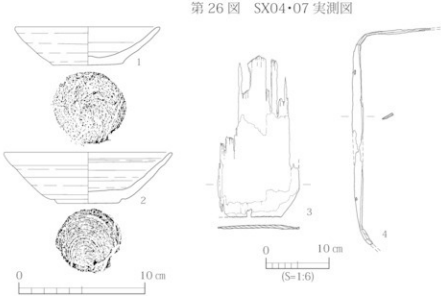
１は０３、その他は０４から出土している。１は土師質土器の坏で器高はやや低く、体部は横方向に広く立ち上がり、底面に回転糸切り痕が残る。２も土師質土器の坏で体部は緩やかに立ち上がり、底部に回転糸切り痕が残る。３はかなり脆くなっていたが折敷の底板で、隅が斜めに切り取られている。４は折敷の側板の一部で２箇所の折り角が確認できる。円孔が２箇所施され綴紐が一部残存していた。

**ＳＸ０５（第 28 図）**

2-2 区東壁寄りで検出した墓である。平面形態は隅丸方形状を呈しており、規模は長軸 1.05 m、短軸 0.7 m、深さ 50cm を測る。覆土は灰褐色土、暗黄褐色土が堆積している。底面から０４同様に折敷の底板と微量であるが脆くなった骨片らしきものが検出されたが、木棺の痕跡は認められなかった。年代についてはＳＸ０４と同時期頃と考えておきたい。




第 26 図　SX04・07 実測図



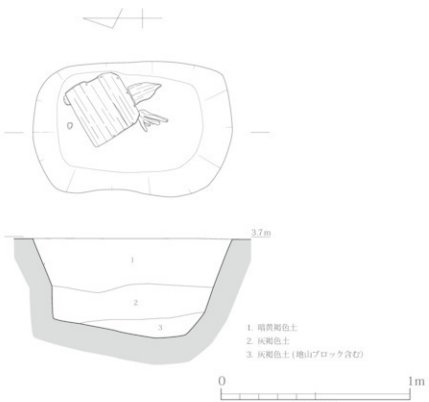

第 27 図　SX03・04 出土遺物実測図

**ＳＸ０５出土遺物（第 29 図）**

５は折敷の側板、その他は底板である。５の側板には円孔が２箇所施され、折り角が認められる。６の底板は１／４が欠損している。隅が斜めに切り取られ、８箇所の目釘穴が残っているが、刃物等による擦痕が認められる。１～４は６の欠損した部分である。

**ＳＸ０６（第 30 図）**

2-2 区でＳＤ０３と重複する状況で検出された土坑である。平面形態は楕円形状を呈しており、



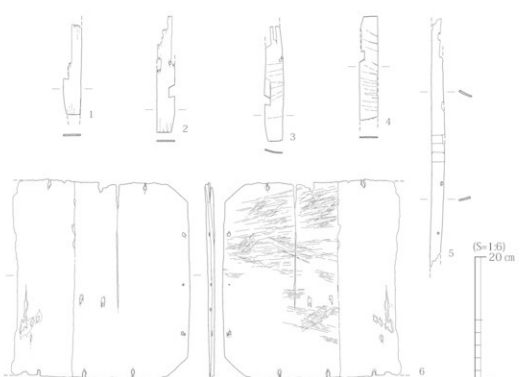

第 28 図　SX05 実測図

規模は長軸 2.8 m、短軸 2.3 m、深さ 1 mを測る。東側のＳＤ０３と接する部分で横に組まれたような状態の径 8 ～ 15cm の丸木と 10 ～ 40cm 大の自然石が数個確認された。この状況から判断するとＳＤ０３と一体で機能していた遺構の可能性も高く、導水施設等の機能が想定される。そうだとすれば、ＳＤ０３から流れてきた水を溜めていた溜桝か、若しくはその逆で溜まった水をＳＤ０３を利用して流していたのかもしれない。

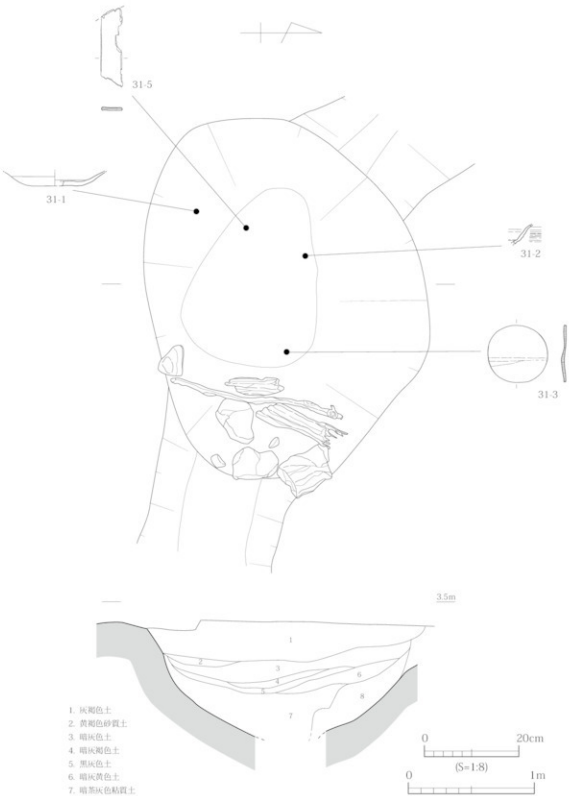
内部から土師質土器と木製品が出土しており、16 世紀頃の遺構と考えられる。

**ＳＸ０６出土遺物（第 31 図）**

1 は土師質土器の盤、2 は坏であるが、両者ともやや大型で雑な作りのものである。3・5 は曲




第 29 図　SX05 出土遺物実測図

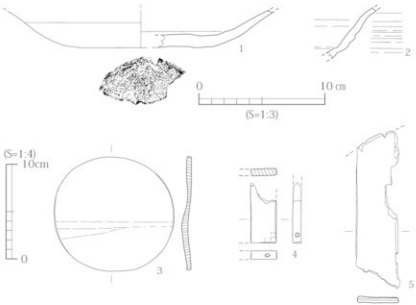



第 30 図　SX06 実測図

物の底板である。４は板状木製品で円孔が２箇所施されている。

**ＳＸ０７（第 25・26 図）**

ＳＸ０３・０４と重複して検出されている。平面形態は円形もしくは隅丸方形状を呈しており、規模は長軸 1.1 m、短軸１m、深さ 30cm を測る。遺物等は出土しなかった。




第 31 図　SX06 出土遺物実測図

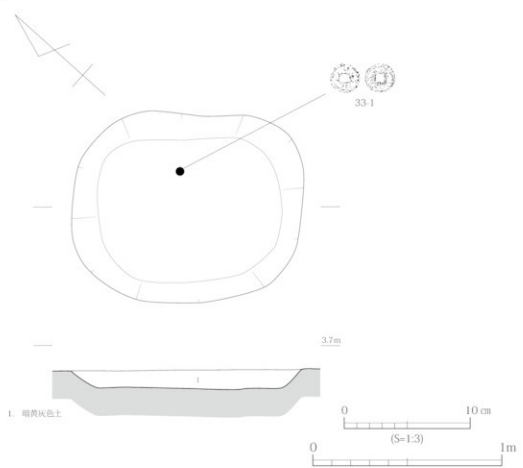
年代については内部から遺物が出土していないため特定できないが、切り合い関係から０４より古いことが判明している。また、性格については０４などの墓と重複して検出されていることからみると、墓であった可能性も否定できない。

**ＳＸ０８（第 32 図）**

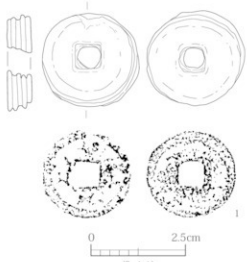
ＳＸ０５の西隣で検出した土坑である。平面形態は隅丸方形状を呈しており、規模は長軸 1.2 m、短軸 1 m、深さは 10cm と浅く、後世等に削平を受けたものと考えられる。内部からは５枚重なった古銭が出土している。

**ＳＸ０８出土遺物（第 33 図）**

一番上の銭文は「□□元□」と読めるが、他は剥がすことができなかったため判読することができなかった。




第 32 図　SX08 実測図




第 33 図　SX08 出土遺物実測図

**ＳＫ出土遺物（第 34 図）**

１はＳＫ０６、２・３はＳＫ０５、４～７はＳＫ０７、８～ 11 はＳＫ０８から出土している。

１は備前焼の徳利底部である。２も備前焼の徳利と考えられ、内面に同心円状の当て具痕が残っている。３は白磁碗である。４は瀬戸・美濃系陶器の皿で、口縁内外面の釉薬が二次焼成を受けて火膨れを生じている。５は肥前系陶器の丸形皿である。６は肥前系陶器の皿で外面の釉薬が二次焼成により火膨れを生じて白化している。７も肥前系陶器の皿である。８・９は土師質土器の坏で、８は器高がやや低く、体部は横方向に大きく開いている。底部外面に回転糸切り痕が残る。９は底部であるが遺存状況は悪い。10・11 は土師質土器の皿で、広い底部から短めの口縁部が外方に向けて立ち上がるタイプである。

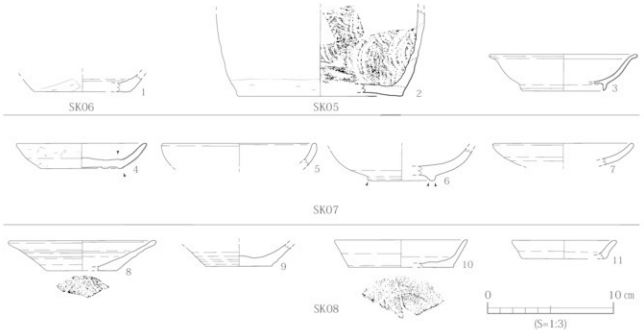
**４．井戸跡**

2-2 区から石組みの井戸跡を１基検出した。

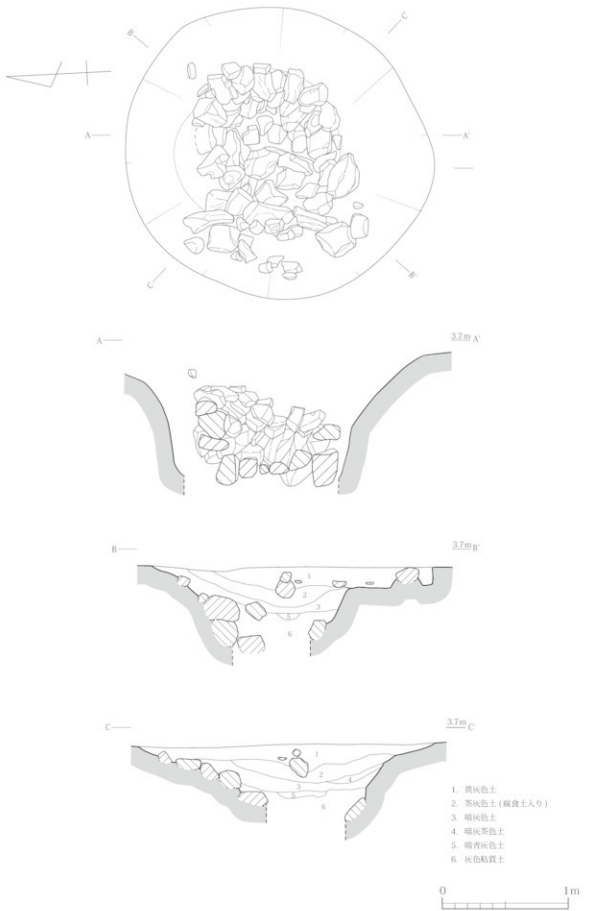
**ＳＥ０１（第 35 図）**

調査区南寄りでＳＤ０２とＳＸ０６の中間で検出した石敷き石組みの井戸跡である。掘形の平面形はほぼ円形状を呈し、径 2.4 m、深さ約 80cm を測る。

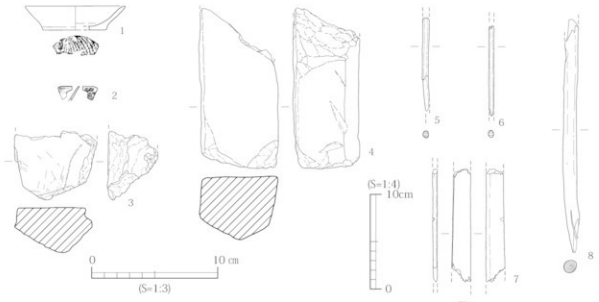
掘形底面の石敷きは、長さ 30 ～ 40cm 大の自然石を長方形状に敷いており、その規模は長軸 1.3 m、短軸 1.1 mを測る。この石敷きを囲むようにして 20 ～ 40cm 大の自然石を積み上げて井戸を作り上げていた。本体部分は上端の石積みの崩落が著しいが楕円形もしくは隅丸長方形状を呈して



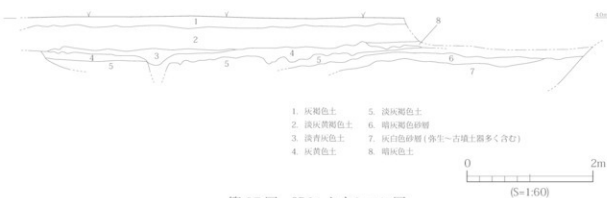

第 34 図　SK 出土遺物実測図




第 35 図　SE01 実測図




第 36 図　SE01 出土遺物実測図




第 37 図　SR01 セクション図

おり、内側で長軸 90cm、短軸 80cm、深さ 80cm を測る。

遺物は覆土中から土師質土器や陶磁器、砥石、木製品等が出土しており、遺物の特徴から 16 世紀頃の井戸跡と推測される。

**ＳＥ０１出土遺物（第 36 図）**

１は体部が外方に大きく開く土師質土器の皿で、底部外面に回転糸切り痕を残す。２は青花碗の口縁部で外面に蛟龍文、内面に草花文らしき模様を施している。３・４は砥石で３は２面、４は３面研磨されている。５・６は箸状木製品の破片と考えられる。７は板状木製品で漆塗りの痕跡が残る。８は杭で先端を尖らせている。

**５．自然河道**

２-２区北端で東西方向に延びる自然河道を１条検出した。

**ＳＲ０１（第６・37 図）**

調査区北端を東西に延びているため確認できた規模は長さ 13 m、幅 8.5 m、深さ約 50cm であった。第７層の灰白色砂層に縄文～中世までの土器が含まれていたが、その下層については湧水が著しかったため、調査は行えなかった。

**ＳＲ０１出土遺物（第 38 図）**

1 は縄文土器の破片である。2～8 は弥生土器で、2・3 はⅢ様式に属する甕である。4～8 は複合口縁の甕で口縁端部を丸くおさめるタイプと平坦なタイプがある。9 は複合口縁部が退化した土師器甕である。10 は単純口縁の甕で、口縁部は緩やかに開く。11 は複合口縁の壺であるが、口縁部を欠損している。12 は高坏の口縁部である。13 は高坏の脚部で、脚端部が外方に大きく屈曲して開く。14 は器台の受部、15 は脚台部である。16 は土師質土器の坏である。17 は土師質土器の皿で広い底部から外方に短くのびる口縁部を有する。

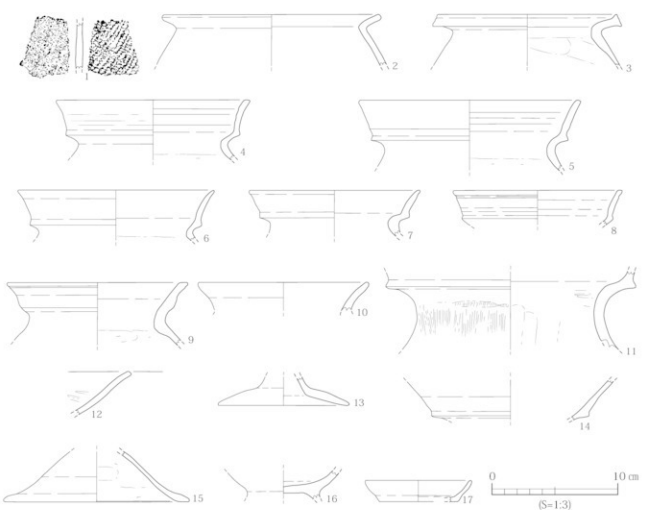
## 第３節　包含層の調査

### １．包含層の調査

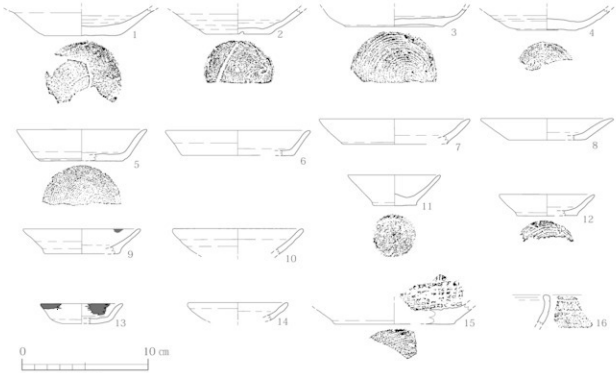
遺構面上面には 2-1 区では明褐色土、2-2 区では淡灰褐色土の遺物包含層が認められ、その厚さは 20 ～ 40cm あり調査区全面に堆積していた。遺物の大半は磨滅して細片となったものが占めており、水田耕作等の影響を受けたものと考えられる。土師質土器、陶磁器類等が出土しており、14 世紀後半～ 17 世紀前半のものが混在している。

**包含層出土遺物（第 39 ～ 43 図）**

**（１）土師質土器（第 39 図）**




第 38 図　SR01 出土遺物実測図




第 39 図　包含層出土遺物実測図 (1)

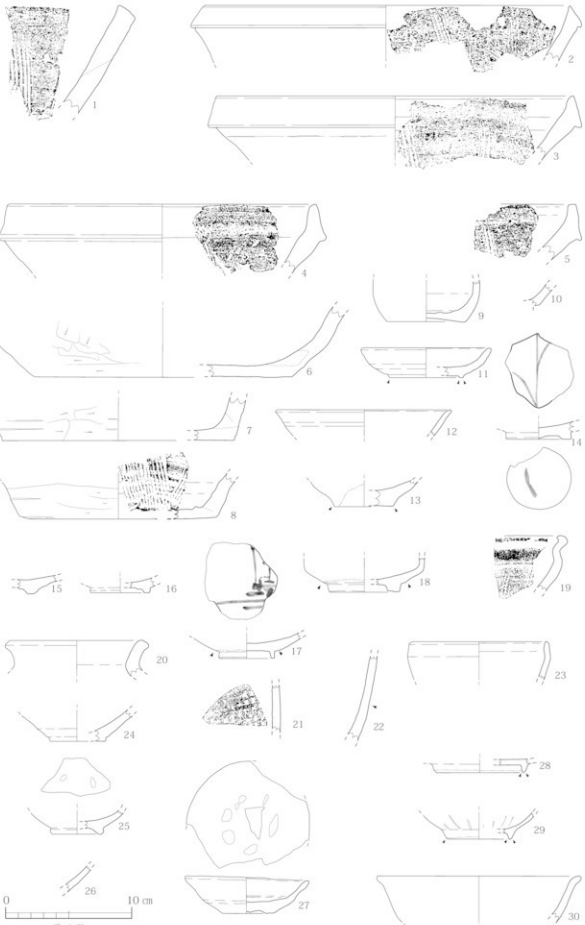
1 ～ 4 は口縁部を欠損しているが、体部が長くのびるタイプの坏と思われる。底面には回転糸切り痕が残る。5 ～ 8 は広い底部から体部が短くのびる坏である。9 は灯明皿で口縁内面に煤が付着している。10 は坏の口縁部である。11 は小型の坏で底部外面に静止糸切り痕が残る。12 ～ 14 は皿で、13 は内外面に煤が付着している灯明皿である。15 は卸し皿で内面に格子状の刻目が施される。16 は火鉢で口縁外面に 2 条の沈線に挟まれた印花文を施している。

**（2）陶器（第 40 図 1 ～ 26）**

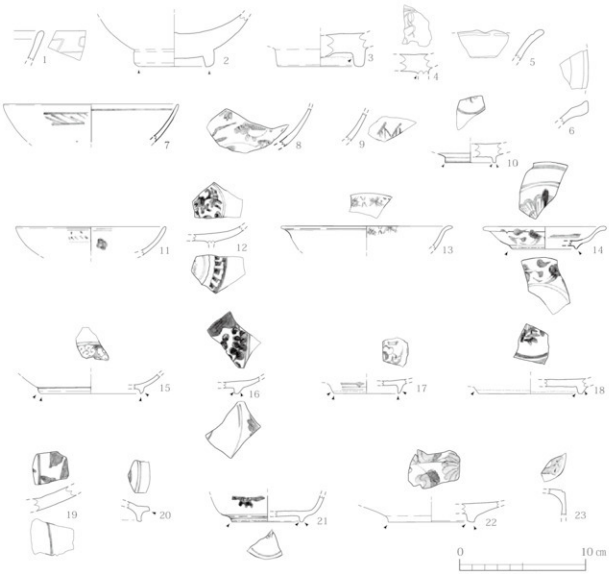
1 ～ 5 は備前焼の擂鉢で、1 はⅢ B 期、2 はⅣ A － 1 期、3 はⅣ B － 1 期、4・5 はⅣ B － 2 期に属するものである。6 は備前系の甕底部、7 は壺底部、8 は擂鉢である。9 は備前焼の徳利で外面に火襷が認められる。10 は瀬戸・美濃系の天目碗の細片である。11 は瀬戸・美濃系の丸皿で二次焼成による火膨れを生じている。12 は肥前系の溝縁皿である。13 ～ 17 は肥前系の皿で、14 は絵唐津向付で見込みに草文、高台内面に墨書らしき痕跡が残っている。17 の見込みには山水文が施され、高台畳付に煤が付着しており、何かに転用された可能性もある。18 は肥前系の半筒形香炉である。19 は肥前系の擂鉢で口縁端部が内湾している。20 は肥前系の壺で口唇部に伏せ焼き痕が認められる。21 は肥前系の甕で内面に格子目の押さえが残る。22 は瀬戸・美濃系の壺と考えられる。23 は中国陶器の天目碗、24 は碗底部である。25・26 は朝鮮系と考えられる碗で、25 は見込みに胎土目が 2 箇所認められる。

**（3）磁器（第 40 図 27 ～ 41 図）**

27 ～ 29 は白磁である。27 は見込みに 6 箇所、高台に 5 箇所の砂目が残る軟質の皿、29 は稜花鉢である。30 ～ 41 図 1 ～ 6 は龍泉窯系青磁の碗及び皿である。30 は端反形碗、41 図 1 は口縁部外面に雷文を施す碗、3 は碗の底部であり、これらは 14 世紀後半～ 15 世紀前葉頃の碗と考えられる。4 は見込みに線刻文様を施す碗で、15 世紀後半頃と考えられる。5 は輪花皿で口縁内面に印花を施している。6 は折縁皿である。7 ～ 20 は中国青花である。7 は口銹の認められる碗




第 40 図　包含層出土遺物実測図 (2)




第 41 図　包含層出土遺物実測図 (3)

である。8は魚文、9は芭蕉葉文を施す。10の畳付には釉剥ぎが認められる。11は文様不明の皿である。12の見込みには花卉文、高台内面には二重圏線内に「大明嘉」と読める銘があり、本来は「大明嘉靖年製」という銘が施されていたと考えられ、1522年～1566年製の皿であろう。13の口縁内面には四方襷文様、14の見込みには花文が施され、高台内は釉剥ぎが認められる。15は見込みに飛雲文、高台に釉剥ぎが認められる。16は見込みに花卉樹石文、外面に唐草文らしき文様を施し、畳付に釉剥ぎが認められる。17･18は見込みに草花文らしき文様を施し、畳付付近に釉剥ぎが認められる。19は漳州窯系の折縁皿で文様は不明。20は蓋で二重圏線が認められる。21～23は肥前系磁器である。21は腰張形碗で三階松文かコンニャク印らしき文様が施され、畳付に釉剥ぎが認められる。22は皿で見込みに菊花文、畳付に釉剥ぎが認められる。23は水滴と思われる。7は碗C群、13・14は皿B２群、16は皿E群に属するものと考えられる。

**（4）古銭（第 42 図１～６）**

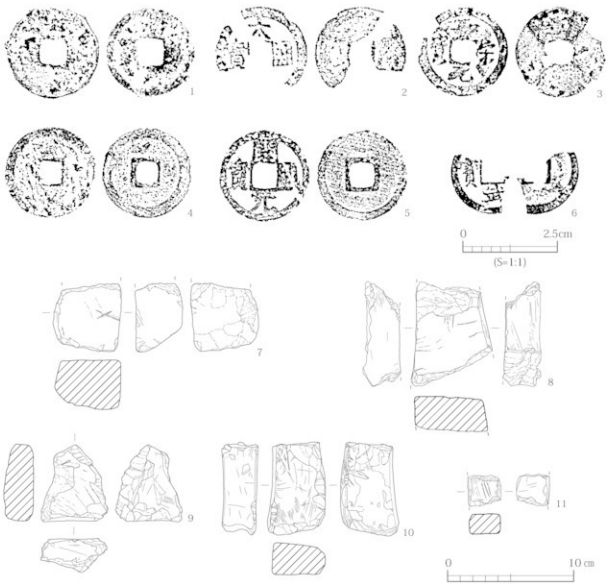
２は「太□通寶」、３は「聖宋元寶」か、５は「開元通寶」、６は「□武□寶」であるが、その他は磨滅が著しく不明であった。

**（5）石製品（第 42 図７～ 11）**

全て砥石である。7・8・11は2面研磨、その他は4面研磨されている。

**（6）その他の遺物（第43図）**

1は土錘である。2は人形らしき土製品で、外面は磨き、内面に指頭圧痕が残る。3は輪の羽口である。




第42図　包含層出土遺物実測図(4)

第43図 包含層出土遺物実測図(5)

# 第4章　総括

平成21・22年度に調査を実施した1区では有力者の居館跡と考えられる大型建物跡や将棋盤などの特殊な遺物が出土しており、今回の調査区でも同様な状況が想定された。結果としては、特殊な遺物は認められなかったが、1区ほどではないとしても比較的大規模な建物跡は存在し、それを区画するために構築されたと考えられる大溝や墓及び井戸跡などが確認された。遺物は16世紀～17世紀頃の土師質土器や陶磁器類等が大半を占め、この地域に当該期の大規模な集落が存在していたことが明らかとなった。以下、検出された遺構を中心にして中世集落の様相について若干検討してみたい。

## 1．集落の様相

建物跡及び柱穴群は2-1区に集中して検出され、建物跡の西側には南北方向に延びる大溝が存在している。柱穴は総数300あまり確認されたが、建物跡として復元できたものは僅か6棟であった。柱穴密度が高く、多数の柱穴が切り合っている状況から判断すれば、幾度となく建て替えが行われたと推察される。建物跡の規模は2間×1間から1間×5間以上を測り、1区のように居館跡などのような中心的施設といえる建物跡は確認されていない。ただ、柱穴は径、深さともに1m前後と大型のものが多いのが1区と同様にこの遺跡の特徴といえる。

大溝は2-1区と2-2区の中央付近を南北方向に延びる状況で検出された。2-2区では溝の北端が確認されているが、南側は調査区外に延びているため、その範囲や形態などは不明と言わざるを得ない。確認できた長さは約25mを測り、大溝にほぼ平行するように建物跡の並びが認められることから、この大溝は建物跡等を区画する大溝と判断した。この大溝の北端には東に延びる浅い溝も付属しており、その40m南側にも同様の規模の溝が存在することから察すれば、これらの小溝は屋敷地と屋敷地の境を示す小区画の溝の可能性が高い。このことから見ると当遺跡は大溝によって区画された東側に複数の屋敷地、北西及び北側は墓や井戸跡などが配置された集落構成をとっているようである。このように大溝等で区画された集落は全国的には13世紀頃から見られるようであり、この大溝がいつ頃形成されたのかは判然としないが、覆土中からは14世紀中頃～17世紀初頭の遺物が出土していることから考えれば、14世紀代に掘削され17世紀代に埋没したものと推測でき、集落の存続期間も大溝と同時期頃と理解しておきたい。

また、大溝と建物跡等との間には遺構の存在しない幅約4mの空白地帯が認められている。この空白地帯から大溝を含む調査区西壁までは宅地の基礎によって周辺の遺構面より約10cm程度低く削り取られている状況であった。しかし、柱穴の規模から判断すれば削平を受けて消滅したとは考えがたく、元々から建物等は存在していなかったものと考えられよう。この空白地帯のあり方については、土塁が巡っていた可能性も想定される。大溝掘削時に発生した土を利用して大溝の東側に土塁を構築したものと考えられるが、後世に大規模な削平を受けた結果、その跡が空白地帯になったものと推測される。

以上のように当集落は大溝及び土塁によって区画された複数の屋敷地によって構成されており、何らかの計画性に基づいて形成された集落と考えられる。一般的な集落とは異なり、有力者層を中心とした「町」的な様相も窺えるが、調査範囲が狭小であるため全体像を捉えることは不可能であ

った。今後、周辺地域の調査・研究が進み、出雲平野における中世集落の様相が判明することに期待したい。

## 2．墓の様相

墓及びその可能性の高いものが５基確認されており、そのうちの１基が火葬墓（明確には火葬を行った土坑）で他は土葬墓であった。

火葬墓は削平を受けたと考えられ、深さ 17cm しか残存していない。土坑の北壁と南壁の一部が焼土化しており、内部には多量の炭・焼土とともに火葬されたと考えられる骨の細片と被熱痕跡の認められる石が検出されている。ただ、骨片の残存量からみるとそのまま埋葬されたのではなく、茶毘に付した後に拾骨されて別の場所に埋葬された可能性が高く、この土坑は火葬に使用した遺構と判断した。底面に置かれていた焼けた石については、松江市二反田古墓などにも見ることができ、その用途については火力を増すためのものとの指摘もある（川原 2014）。時期については土坑上面出土の土師質土器が出雲市白枝本郷遺跡２号墓出土のものと比較的類似することから 16 世紀頃と考えておきたい。なお、骨を納めた骨臓器などは調査区内では確認されていないが、近くに埋葬されたものであろう。

明確な土葬墓は２基存在し、残りは可能性の高いものである。２基（ＳＸ０４・０５）とも木棺を有しない土壙墓で内部からは折敷と脆くなった人骨片少量が出土し、ＳＸ０４には土師質土器の坏１点も含まれていた。時期についてはＳＸ０４出土の土師質土器が白枝本郷遺跡１号墓出土のものと類似していることから 15 世紀後半頃と考えられる。２基とも底面から折敷が検出されていることがこの墓の特徴といえるが、その使用方法や意味については把握できなかった。出雲平野の中世から近世の墓を見ると、白枝本郷遺跡、余小路遺跡、角田遺跡などでも折敷が検出された墓が確認されており、このことから当該期の出雲平野の葬送儀礼の一部には何らかの作法に基づく埋葬形態が存在したのかも知れない。

今回検出された墓は 15 世紀後半頃から 16 世紀代のものであり、火葬墓より土葬墓が若干古いことが判明している。また、検出地点にも差が認められ、火葬墓は屋敷地内に、土葬墓は屋敷地外にやや密集する状況で確認された。この差異を時期や埋葬形態によるものか明確にすることはできず今後の課題としたいが、出雲平野の中世墳墓の様相を知る上で貴重な資料といえる。

**引用・参考文献等**


島根県教育委員会『高浜１遺跡　一般県道矢尾今市線地方道路交付金事業（大塚工区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書２』2011 年

島根県教育委員会『白枝本郷遺跡　一般国道９号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書７』2006 年

島根県教育委員会『余小路遺跡　一般国道９号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書８』2007 年

松江市教育委員会『二反田古墓』1987 年

出雲市教育委員会『角田遺跡第３次発掘調査報告書』2004 年

小野正敏編『図解・日本の中世遺跡』東京大学出版会 2001 年

川原和人「島根県における中世墓―塁三堀遺跡を中心に―」『出雲の考古学』2014 年

## 第１表　高浜１遺跡出土土器観察表

| Fig | 遺物番号 | 写真図版 | 調査区 | 出土地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 色調 | 胎土 | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 15 | 1 | 25 | 1 | SB03 P1 | | 土師質土器 | 坏 | (12.6) | 3.2 | (5.0) | 外：淡橙白色<br>内：淡黄橙色 | 1mm以下　砂粒を少量含む | 良好 | 外：回転ナデ<br>内：回転ナデ |
| 15 | 2 | 25 | 1 | P271 | | 土師質土器 | 皿 | (9.2) | 1.9 | (6.0) | 橙褐色 | 密 | 良好 | 外：回転ナデ<br>内：回転ナデ |
| 15 | 3 | 25 | 1 | SB03 P3 | | 土師質土器 | 坏 | (12.6) | 2.2 | (8.0) | 外：暗黄灰色<br>内：黒褐色 | 密 | 良好 | 外：回転ナデ　回転糸切り<br>内：回転ナデ |
| 15 | 4 | 25 | 2 | P320 | | 土師質土器 | 坏 | (10.6) | (1.9) | | 淡橙褐色 | 1.5mm大礫　砂粒を少量含む | 良好 | 外：回転ナデ<br>内：回転ナデ |
| 15 | 5 | 24 | 1 | P142 | | 陶器 | 擂鉢 | (24.2) | (5.5) | | | | 良好 | 外：暗茶色<br>内：暗赤褐色　回転ナデ　擂目４条以上 |
| 15 | 6 | 24 | 1 | P142 | | 陶器 | 折縁皿 | (11.2) | 2.6 | (6.2) | | 乳白色 | 良好 | 外：ケズリ　灰釉<br>内：菊花文　灰釉<br>瀬戸・美濃系 |
| 15 | 7 | 24 | 1 | P271 | | 陶器 | （丸）皿 | (13.0) | | | | 乳白色 | 良好 | 外：灰釉か<br>内：灰釉か<br>瀬戸・美濃系 |
| 15 | 8 | 24 | 1 | P242 | | 陶器 | 折縁形皿 | (14.4) | | | | 褐色 | 良好 | 外：灰釉<br>内：灰釉<br>肥前系（唐津） |
| 15 | 9 | 24 | 1 | P274 | | 陶器 | 端反形皿 | (13.0) | | | | 淡褐色 | 良好 | 外：透明釉<br>内：透明釉<br>肥前系（唐津） |
| 15 | 10 | 24 | 1 | P297 | | 陶器 | 灰青沙器皿 | | | (4.0) | | 灰色 | 良好 | 外：灰釉　砂目×１<br>内：灰釉　砂目×１<br>朝鮮 |
| 15 | 11 | 24 | 1 | P142 | | 磁器 | 青磁碗 | (14.4) | (5.1) | | | 灰色 | 良好 | 外：施釉<br>内：施釉 |
| 15 | 12 | 24 | 1 | SB06 P7 | | 磁器 | 青磁碗 | (14.8) | (4.9) | | | 灰色 | 良好 | 外：施釉<br>内：施釉 |
| 15 | 13 | 24 | 1 | P119 | | 磁器 | 青磁碗 | (14.6) | (2.7) | | | 灰色 | 良好 | 外：施釉<br>内：施釉 |
| 15 | 14 | 24 | 1 | P178 | | 磁器 | 碗 | | | | | 灰白色 | 良好 | 外：施釉<br>内：施釉<br>肥前 |
| 15 | 15 | 24 | 1 | P212 | | 磁器 | 青花碗 | | | (6.4) | | 白色 | 良好 | 外：蓮弁文　施釉<br>内：花弁文か　施釉<br>景徳鎮 |
| 19 | 1 | 26 | 1 | SD02 | | 土師質土器 | 皿 | (12.0) | (1.8) | | 灰黄色 | 密 | 良好 | 外：回転ナデ<br>内：回転ナデ |
| 19 | 2 | 26 | 1 | SD02 | 3 層 | 炻器 | 擂鉢 | | | | | 赤褐色 | 良好 | 外：ヨコナデ<br>内：ヨコナデ　擂目６条単位<br>備前 |
| 19 | 3 | 26 | 1 | SD02 | 2 層 | 炻器 | 擂鉢 | | | | | 暗赤褐色 | 良好 | 外：ヨコナデ<br>内：ヨコナデ　擂目３条以上<br>備前 |
| 19 | 4 | 26 | 1 | SD02 | 3 層 | 炻器 | 擂鉢 | | | | | 暗灰色 | 良好 | 外：ヨコナデ<br>内：ヨコナデ<br>備前 |
| 19 | 5 | 26 | 1 | SD02 | 3 層 | 炻器 | 擂鉢 | (24.4) | | | | 赤褐色～灰色 | 良好 | 外：ヨコナデ　重ね焼き痕<br>内：ヨコナデ<br>備前 |
| 19 | 6 | 26 | 1 | SD02 | 3 層 | 炻器 | 擂鉢 | | | (10.2) | | 暗灰色 | 良好 | 外：ヨコナデ　ケズリ<br>内：擂目９条単位<br>備前 |
| 19 | 7 | 26 | 1 | SD02 | | 炻器 | 甕 | | | | | 赤褐色 | 良好 | 外：貼り付け突帯<br>備前 |
| 19 | 8 | 26 | 1 | SD02 | | 陶器 | 端反形碗 | | | | | 灰褐色 | 良好 | 外：灰釉　鉄絵<br>内：灰釉<br>肥前系（唐津） |
| 19 | 9 | 26 | 1 | SD02 | | 陶器 | 灰釉皿 | | | (5.0) | | 灰色 | 良好 | 外：灰釉<br>内：灰釉<br>肥前系（唐津） |
| 19 | 10 | 26 | 1 | SD02 | | 陶器 | 皿 | | | 4.4 | | 灰色 | 良好 | 外：灰釉<br>内：灰釉　目跡×４<br>肥前系（唐津） |
| 19 | 11 | 27 | 1 | SD02 | | 陶器 | 皿 | | | (5.4) | | 灰色 | 良好 | 外：灰釉<br>内：灰釉<br>肥前系（唐津） |
| 19 | 12 | 27 | 1 | SD02 | | 陶器 | 灰青沙器皿 | | | 4.6 | | 灰色 | 良好 | 外：灰釉　目跡×６(高台)<br>内：灰釉　目跡×４<br>朝鮮 |
| 19 | 13 | 27 | 1 | SD02 | | 陶器 | 灰青沙器皿 | | | 4.1 | | 暗灰色 | 良好 | 外：灰釉　砂目×４(高台)<br>内：灰釉　砂目×４<br>朝鮮 |
| 19 | 14 | 27 | 1 | SD02 | | 陶器 | 浅丸鉢 | | | | | 橙褐色 | 良好 | 外：無釉<br>内：刷毛目　鉄釉<br>肥前系（唐津） |
| 19 | 15 | 27 | 1 | SD02 | | 陶器 | 鉄釉壺 | | | (16.2) | | 灰褐色 | 良好 | 外：鉄釉<br>内：青海波オサエ　鉄釉<br>肥前系 |
| 19 | 16 | 28 | 1 | SD02 | 2 層 | 陶器 | 水注 | | | 3.2 | | | 良好 | 外：鉄釉　破断面に漆付着<br>糸切り痕<br>肥前系 |

| Fig | 遺物番号 | 写真図版 | 調査区 | 出土地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 色調 | 胎土 | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 19 | 17 | 27 | 1 | SD02 | 3 層 | 磁器 | 青磁碗 | | | (5.0) | | 灰白色 | 良好 | 外：線刻文様か　青磁釉<br>内：青磁釉<br>龍泉窯 |
| 19 | 18 | 27 | 1 | SD02 | | 磁器 | 青花皿 | | | (2.8) | | 白色 | 良好 | 外：波濤文　透明釉<br>内：唐花文　透明釉<br>景徳鎮 |
| 19 | 19 | 27 | 2 | SD02 | | 磁器 | 青花皿 | | 2.4 | (6.2) | | 白色 | 良好 | 外：圏線×2　透明釉<br>内：花唐文　四方押　透明釉<br>景徳鎮 |
| 19 | 20 | 27 | 1 | SD02 | | 磁器 | 青花皿 | (12.0) | | | | 白色 | 良好 | 外：圏線　透明釉<br>内：四方押　透明釉<br>景徳鎮 |
| 19 | 21 | 27 | 1 | SD02 | 2 層 | 磁器 | 青花皿 | | | 4.4 | | 灰白色 | 良好 | 外：透明釉　圏線<br>内：透明釉　草花文<br>中国 |
| 19 | 22 | 27 | 1 | SD02 | | 磁器 | 端反形小皿 | (8.0) | | | | 白色 | 良好 | 外：透明釉<br>内：透明釉<br>肥前系 |
| 22 | 1 | 29 | 2 | SD03 | | 土師質土器 | 坏 | | | | 黄橙色 | 密<br>1mm以下　砂粒を<br>少量含む | 良好 | 外：回転ナデ　回転ヘラ切り<br>内：回転ナデ |
| 22 | 2 | 29 | 2 | SD03 | | 須恵器 | 擂鉢 | | | | | 赤褐色～灰色 | 良好 | 外：ヨコナデ　ケズリ<br>内：ヨコナデ　擂目８条以上<br>櫛前 |
| 22 | 3 | 29 | 2 | SD06 | | 磁器 | 青磁碗 | | | | | 灰白色 | 良好 | 外：青磁釉<br>内：青磁釉 |
| 24 | 1 | 30 | 1 | SX01 | | 土師質土器 | 坏 | | (1.2) | (7.6) | 暗茶褐色 | 密 | 良好 | 外：回転ナデ　回転糸切り<br>内：回転ナデ |
| 24 | 2 | 30 | 1 | SX02 | | 土師質土器 | 皿 | (10.8) | (1.7) | | 橙褐色 | 密 | 良好 | 外：回転ナデ<br>内：回転ナデ |
| 27 | 1 | 30 | 2 | SX03 | | 土師質土器 | 坏 | 11.6 | 5.6 | 3.05 | 外：橙白色<br>内：淡黄橙色 | 密 | 良好 | 外：回転ナデ　回転糸切り<br>内：回転ナデ |
| 27 | 2 | 30 | 2 | SX04 | | 土師質土器 | 坏 | (13.4) | 4.1 | 5.0 | 白橙色 | 密 | 良好 | 外：回転ナデ　回転糸切り<br>内：回転ナデ |
| 31 | 1 | 30 | 2 | SX06 | | 土師質土器 | 甕か | | (3.0) | | 外：暗茶灰色<br>内：明黄褐色 | 密<br>1mm以下　砂粒を<br>少量含む | 良好 | 外：回転ナデ　回転糸切り<br>内：摩滅のため調整不明 |
| 31 | 2 | 30 | 2 | SX06 | | 土師質土器 | 坏 | | | | 淡黄灰色 | やや密<br>2mm以下　砂粒を<br>少量含む | 良好 | 外：回転ナデ<br>内：回転ナデ |
| 34 | 1 | 31 | 1 | SK06 | | 陶器 | 瀬戸 | | | (7.4) | | 灰色～赤褐色 | 良好 | 外：ケズリ<br>内：回転ナデ<br>櫛前系 |
| 34 | 2 | 31 | 1 | SK05 | | 陶器 | 瀬戸か | | | (13.0) | | 灰色 | 良好 | 外：タタキのちヨコナデ<br>ケズリ　底糸<br>内：青海波オサエ　ナデ<br>肥前系 |
| 34 | 3 | 31 | 1 | SK05 | | 磁器 | 白磁碗 | (11.8) | 2.9 | (6.4) | | 白色 | 良好 | 外：施釉<br>内：施釉 |
| 34 | 4 | 31 | 1 | SK07 | | 陶器 | 皿 | 10.4 | 2.0 | 6.4 | | 橙白色 | 良好 | 外：施釉に火膨れ生ずる<br>内：施釉に火膨れ生ずる |
| 34 | 5 | 31 | 1 | SK07 | | 陶器 | 丸形皿 | (12.4) | | | | 褐色 | 良好 | 外：灰釉<br>内：灰釉<br>肥前系 |
| 34 | 6 | 31 | 1 | SK07 | | 陶器 | 皿 | | | (5.3) | | 淡黒色 | 良好 | 外：ケズリ　灰釉<br>内：灰釉<br>肥前系（唐津） |
| 34 | 7 | 31 | 1 | SK07 | | 陶器 | 皿 | (11.2) | (1.7) | | | 淡黄灰色 | 良好 | 外：施釉<br>内：施釉 |
| 34 | 8 | 31 | 1 | SK08 | | 土師質土器 | 坏 | (11.8) | 2.4 | (5.6) | 橙褐色 | 密 | 良好 | 外：回転ナデ　回転糸切り<br>内：回転ナデ |
| 34 | 9 | 31 | 1 | SK08 | | 土師質土器 | 坏 | | 1.7 | 5.2 | 外：黄橙色<br>内：暗黄橙色 | 密 | 良好 | 外：回転ナデ<br>内：回転ナデ<br>漆か？一部付着 |
| 34 | 10 | 31 | 1 | SK08 | | 土師質土器 | 皿 | (10.6) | 2.2 | (8.4) | 暗橙褐色 | 密 | 良好 | 外：回転ナデ　回転糸切り<br>内：回転ナデ |
| 34 | 11 | 31 | 1 | SK08 | | 土師質土器 | 皿 | (8.4) | 1.5 | (6.8) | 暗橙色 | 密 | 良好 | 外：回転ナデ<br>内：回転ナデ |
| 36 | 1 | 31 | 1 | SE01 | | 土師質土器 | 皿 | (8.0) | (1.9) | (5.0) | 黄橙色 | 密 | 良好 | 外：回転ナデ　回転糸切り<br>内：回転ナデ |
| 36 | 2 | 31 | 2 | SE01 | | 磁器 | 青花碗 | | | | | 白色 | 良好 | 外：蛇龍文か　透明釉<br>内：草花文か　透明釉<br>景徳鎮 |
| 38 | 1 | 32 | 2 | SR01 | 砂層 | 縄文 | 鉢 | | | | 外：茶褐色<br>内：黒色 | 2mm以下　砂粒を<br>少量含む | 良好 | 外：縄文<br>内：条痕 |
| 38 | 2 | 32 | 2 | SR01 | 砂層 | 弥生 | 甕 | (17.4) | (4.1) | | 黄褐色 | やや密<br>2mm以下　砂粒を<br>少量含む | 良好 | 外：摩滅のため調整不明<br>内：摩滅のため調整不明 |
| 38 | 3 | 32 | 2 | SR01 | 砂層 | 弥生 | 甕 | (14.2) | (4.1) | | 淡茶褐色 | やや密<br>3mm以下　砂粒を<br>やや多く含む | 良好 | 外：ヨコナデ<br>内：ヘラケズリ |
| 38 | 4 | 32 | 2 | SR01 | 砂層 | 弥生 | 甕 | (15.4) | (4.8) | | 橙褐色 | やや密<br>1mm以下　砂粒を<br>やや多く含む | 良好 | 外：擬凹線文<br>内：ヨコナデ |

| Fig. | 遺物番号 | 写真図版 | 調査区 | 出土地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 色調 | 色調 | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 38 | 5 | 32 | 2 | SR01 | 砂層 | 弥生 | 甕 | (17.6) | (5.6) | | 黄茶色 | やや密<br>3mm以下　砂粒を少量含む | 良好 | 外：摩滅のため調整不明<br>内：ヘラケズリ |
| 38 | 6 | 32 | 2 | SR01 | 砂層 | 弥生 | 甕 | (15.6) | (4.0) | | 黄茶色 | やや密<br>3mm以下　砂粒を少量含む | 良好 | 外：摩滅のため調整不明<br>内：ヘラケズリ |
| 38 | 7 | 32 | 2 | SR01 | 砂層 | 弥生 | 甕 | (13.6) | (3.7) | | 黄茶色 | 密 | 良好 | 外：摩滅のため調整不明<br>内：摩滅のため調整不明 |
| 38 | 8 | 32 | 2 | SR01 | 砂層 | 弥生 | 甕 | (13.4) | (2.8) | | 茶灰色 | 密 | 良好 | 外：摩滅のため調整不明<br>内：摩滅のため調整不 |
| 38 | 9 | 32 | 2 | SR01 | 砂層 | 土師器 | 甕 | (14.4) | (5.0) | | 外：茶褐色<br>内：黒色 | 2mm以下　砂粒を多く含む | 良好 | 外：摩滅のため調整不明<br>内：ヘラケズリ |
| 38 | 10 | 32 | 2 | SR01 | 砂層 | 土師器 | 甕 | (13.6) | (2.3) | | 橙褐色 | 2mm以下　砂粒を多く含む | 良好 | 外：ヨコナデ<br>内：摩滅のため調整不明 |
| 38 | 11 | 32 | 2 | SR01 | 砂層 | 土師器 | 壺 | | (6.2) | (19.8) | 黄褐色 | 2mm以下　砂粒を少量含む | 良好 | 外：ヨコナデ　ハケ目<br>内：ヨコナデ　ヘラミガキ<br>指頭圧痕 |
| 38 | 12 | 32 | 2 | SR01 | 砂層 | 土師器 | 高杯<br>（杯部） | | | | 黄褐色 | 1mm以下　砂粒を少量含む | 良好 | 外：摩滅のため調整不明<br>内：ヘラミガキか |
| 38 | 13 | 32 | 2 | SR01 | 砂層 | 土師器 | 高杯<br>（脚台部） | | (2.3) | | 淡黄橙色 | 密<br>2mm以下　砂粒を少量含む | 良好 | 外：摩滅のため調整不明<br>内：摩滅のため調整不明 |
| 38 | 14 | 32 | 2 | SR01 | 砂層 | 土師器 | 器台<br>（受部） | | | | 黄灰色 | 密 | 良好 | 外：摩滅のため調整不明<br>内：摩滅のため調整不明 |
| 38 | 15 | 32 | 2 | SR01 | 砂層 | 土師器 | 高杯か器台<br>（脚台部） | | (4.0) | (14.8) | 暗黄茶色 | 3mm以下　砂粒を少量含む | 良好 | 外：摩滅のため調整不明<br>内：ヘラケズリ |
| 38 | 16 | 32 | 2 | SR01 | 砂層 | 土師質土器 | 坏 | | | | 黄褐色 | 密 | 良好 | 外：回転ナデ<br>内：回転ナデ |
| 38 | 17 | 32 | 2 | SR01 | 砂層 | 土師質土器 | 皿 | (8.4) | (1.7) | (6.2) | 黄褐色 | 密 | 良好 | 外：摩滅のため調整不明<br>内：摩滅のため調整不明<br>赤色顔料付着 |
| 39 | 1 | 36 | 1 | C4 | 包含層 | 土師質土器 | 坏 | | 2.1 | 6.0 | 黄橙色 | 密 | 良好 | 外：回転ナデ　回転糸切り<br>内：回転ナデ　静止ナデ |
| 39 | 2 | 36 | 1 | A2 | 包含層 | 土師質土器 | 坏 | | (2.0) | 5.4 | 黄橙色 | 密 | 良好 | 外：回転ナデ　回転糸切り<br>内：回転ナデ　静止ナデか |
| 39 | 3 | 36 | 1 | B2 | 包含層 | 土師質土器 | 坏 | | (1.3) | 7.8 | 外：暗茶褐色<br>内：黄褐色 | 密 | 良好 | 外：回転ナデ　回転糸切り<br>内：回転ナデ　静止ナデ |
| 39 | 4 | 36 | 1 | B1 | 包含層 | 土師質土器 | 坏 | | (1.7) | (4.6) | 黄褐色 | 密 | 良好 | 外：回転ナデ　回転糸切り<br>内：回転ナデ |
| 39 | 5 | 36 | 1 | B4 | 包含層 | 土師質土器 | 坏 | (10.4) | 2.5 | 6.6 | 茶褐色 | 密 | 良好 | 外：回転ナデ　回転糸切り<br>内：回転ナデ |
| 39 | 6 | 36 | 1 | B4 | 包含層 | 土師質土器 | 坏 | (11.6) | 2.0 | (9.0) | 外：黄褐色<br>内：暗黄褐色 | 密 | 良好 | 外：回転ナデ<br>内：回転ナデ |
| 39 | 7 | 36 | 1 | B3 | 包含層 | 土師質土器 | 坏 | (12.0) | 2.0 | (8.2) | 橙褐色 | 密 | 良好 | 外：回転ナデ<br>内：回転ナデ |
| 39 | 8 | 36 | 1 | B3 | 包含層 | 土師質土器 | 坏 | (10.6) | 1.7 | (6.0) | 暗褐色 | 密 | 良好 | 外：回転ナデ　回転糸切り<br>内：回転ナデ |
| 39 | 9 | 36 | 1 | A2 | 包含層 | 土師質土器 | 灯明皿か | (9.4) | 2.0 | (6.0) | 暗褐色 | 密 | 良好 | 外：回転ナデ　回転糸切り<br>内：回転ナデ　煤付着 |
| 39 | 10 | 36 | 1 | C5 | 包含層 | 土師質土器 | 坏 | (10.4) | (2.0) | | 淡黄橙色 | やや密<br>3mm以下　砂粒を少量含む | 良好 | 外：回転ナデ<br>内：回転ナデ |
| 39 | 11 | 36 | 2 | SK09<br>付近 | 包含層 | 土師質土器 | 坏 | 7.4 | 2.45 | 3.4 | 淡橙白色 | 密 | 良好 | 外：回転ナデ　静止糸切りか<br>内：回転ナデ |
| 39 | 12 | 36 | 2 | B6 | 包含層 | 土師質土器 | 皿 | (7.6) | 1.7 | 4.8 | 淡黄褐色 | 密 | 良好 | 外：回転ナデ　回転糸切り<br>内：回転ナデ |
| 39 | 13 | 36 | 1 | B3 | 包含層 | 土師質土器 | 灯明皿か | (6.6) | 1.6 | (3.0) | 黄褐色 | 密 | 良好 | 外：回転ナデ　口縁部煤付着<br>内：摩滅のため調整不明<br>口縁部煤付着 |
| 39 | 14 | 36 | 2 | | 包含層 | 土師質土器 | 皿 | (8.0) | (1.4) | | 黄橙色 | 密 | 良好 | 外：回転ナデ<br>内：回転ナデ |
| 39 | 15 | 36 | 2 | B9 | 包含層 | 土師質土器 | 鉢Ⅰ類 | | | | 灰白色 | 密 | 良好 | 外：回転ナデ　回転糸切り<br>内：格子状の刻目 |
| 39 | 16 | 36 | 2 | C8 | 包含層 | 土師質土器 | 火鉢 | | | | 外：黄橙色<br>内：赤橙色 | やや密<br>2mm以下　砂粒を少量含む | 良好 | 外：沈線に挟まれた印花文<br>内：摩滅のため調整不明 |
| 40 | 1 | 33 | 2 | E7・C8 | 包含層 | 須恵器 | 擂鉢 | | | | | | 良好 | 外：ヨコナデ<br>内：ヨコナデ　擂目5条以上<br>備前焼 |
| 40 | 2 | 33 | 2 | B7 | 包含層 | 須恵器 | 擂鉢 | (29.0) | | | | | 良好 | 外：ヨコナデ<br>内：ヨコナデ　擂目4条以上<br>備前焼 |
| 40 | 3 | 33 | 2 | B8 | 包含層 | 須恵器 | 擂鉢 | (28.4) | | | | | 良好 | 外：ヨコナデ<br>内：ヨコナデ　擂目5条以上<br>備前焼 |
| 40 | 4 | 33 | 1 | A2 | 包含層 | 須恵器 | 擂鉢 | (24.2) | | | | | 良好 | 外：ヨコナデ<br>内：ヨコナデ　擂目2条以上<br>備前焼 |
| 40 | 5 | 33 | 1 | B3 | 包含層 | 須恵器 | 擂鉢 | | | | | | 良好 | 外：ヨコナデ　一部自然釉<br>内：ヨコナデ　擂目3条以上<br>備前焼 |
| 40 | 6 | 33 | 2 | C8 | 包含層 | 須恵器 | 甕 | | | (20.4) | | | 良好 | 外：横方向ナデ　板起こし底<br>内：横方向ナデ<br>備前系 |

| Fig | 遺物番号 | 写真図版 | 調査区 | 出土地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 色調 | 胎土 | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 40 | 7 | 33 | 2 | B9 | 包含層 | 陶器 | 壺か | | | (18.4) | | 薄灰褐色 | 良好 | 外：ケズリ<br>内：回転ナデ<br>備前系 |
| 40 | 8 | 33 | 2 | B4 | 包含層 | 陶器 | 擂鉢 | | | (15.6) | | 灰色 | 良好 | 外：ケズリ<br>内：ヨコナデ　擂目 10 条<br>備前系 |
| 40 | 9 | 33 | 2 | C9 | 包含層 | 陶器 | 徳利 | | | (6.2) | | 灰褐色 | 良好 | 外：回転ナデ　ヘラケズリ<br>　　火襷<br>内：回転ナデ<br>備前系 |
| 40 | 10 | 34 | 1 | A2 | 包含層 | 陶器 | 天目碗 | | | | | 乳白色 | 良好 | 外：露胎<br>内：天目釉<br>瀬戸・美濃系 |
| 40 | 11 | 34 | 1 | B5 | 包含層 | 陶器 | 丸皿 | (10.2) | 2.4 | (5.8) | | 灰黄色 | 良好 | 外：灰釉<br>　（二次焼成による火膨れ）<br>内：灰釉<br>　（二次焼成による火膨れ）<br>瀬戸・美濃系 |
| 40 | 12 | 34 | 1 | A1 | 包含層 | 陶器 | 溝縁皿 | (13.9) | | | | 灰色 | 良好 | 外：灰釉<br>内：灰釉<br>肥前系（唐津） |
| 40 | 13 | 34 | 2 | B8 | 包含層 | 陶器 | 皿 | | | (4.6) | | 淡褐色 | 良好 | 外：糸切り底　鉄釉<br>内：鉄釉<br>肥前系（唐津） |
| 40 | 14 | 34 | 2 | B9 | 包含層 | 陶器 | 絵唐津向付（皿） | | | 5.0 | | 灰褐色 | 良好 | 外：灰釉　高台：墨書か<br>内：灰釉　草文<br>肥前系（唐津） |
| 40 | 15 | 34 | 1 | B5 | 包含層 | 陶器 | 皿 | | | | | 淡灰褐色 | 良好 | 外：灰釉<br>内：灰釉　胎土目×1<br>肥前系（唐津） |
| 40 | 16 | 34 | 1 | B4 | 包含層 | 陶器 | 皿 | | | (4.6) | | 灰色 | 良好 | 外：露胎<br>内：灰釉<br>肥前系（唐津） |
| 40 | 17 | 34 | 2 | B6 | 包含層 | 陶器 | 丸形皿 | | | 4.4 | | 乳白色 | 良好 | 外：透明釉　高台：線刻円印<br>内：透明釉　山水文<br>肥前系 |
| 40 | 18 | 34 | 2 | C8 | 包含層 | 陶器 | 平筒形香炉 | | | (5.6) | | 灰色 | 良好 | 外：灰釉　高台：露胎<br>内：無釉<br>肥前系（唐津） |
| 40 | 19 | 34 | 2 | B9 | 包含層 | 陶器 | 擂鉢 | | | | | 薄灰褐色 | 良好 | 外：鉄釉<br>内：鉄釉<br>肥前系（唐津） |
| 40 | 20 | 34 | 1 | B2 | 包含層 | 陶器 | 壺 | (10.6) | | | | 灰褐色 | 良好 | 外：鉄釉<br>内：鉄釉<br>肥前系（唐津） |
| 40 | 21 | 34 | 2 | B8 | 包含層 | 陶器 | 甕か | | | | | 暗紫色 | 良好 | 外：タタキ成形　鉄釉<br>内：格子目オサエ　鉄釉<br>肥前系（唐津） |
| 40 | 22 | 34 | 1 | B2 | 包含層 | 陶器 | 壺か | | | | | 灰白色 | 良好 | 外：ケズリ　灰釉<br>内：灰釉<br>瀬戸・美濃 |
| 40 | 23 | 34 | 1 | B3 | 包含層 | 陶器 | 天目碗 | (10.6) | | | | 灰色 | 良好 | 外：天目釉<br>内：天目釉<br>中国 |
| 40 | 24 | 34 | 2 | C6 | 包含層 | 陶器 | 碗 | | | (4.6) | | 灰褐色 | 良好 | 外：ケズリ<br>内：褐釉<br>中国か |
| 40 | 25 | 34 | 1 | B4 | 包含層 | 陶器 | 碗 | | | (4.0) | | 灰色 | 良好 | 外：わら灰釉<br>内：わら灰釉　胎土目×2<br>朝鮮 |
| 40 | 26 | 34 | 2 | D9 | 包含層 | 陶器 | 粉青沙器碗か | | | | | 灰色 | 良好 | 外：ケズリ　透明釉<br>内：刷毛目　透明釉<br>朝鮮か |
| 40 | 27 | 34 | 2 | B7 | 包含層 | 軟質磁器 | 白磁皿 | 9.9 | 2.6～3.0 | 4.5 | | 乳白色 | 良好 | 外：透明釉　高台：砂目×5<br>内：透明釉　砂目×6<br>朝鮮 |
| 40 | 28 | 34 | 1 | A1 | 包含層 | 磁器 | 皿 | | | (6.6) | | 白色 | 良好 | 外：透明釉<br>内：透明釉<br>景徳鎮 |
| 40 | 29 | 34 | 1 | B3 | 包含層 | 磁器 | 白磁<br>梅花鉢 | | | (5.0) | | 白色 | 良好 | 外：透明釉<br>内：透明釉　梅花文<br>中国 |
| 40 | 30 | 34 | 1 | B3 | 包含層 | 磁器 | 青磁碗（端反形） | (16.2) | | | | 灰色 | 良好 | 外：青磁釉<br>内：青磁釉<br>龍泉窯 |
| 41 | 1 | 35 | 2 | B8 | 包含層 | 磁器 | 青磁碗 | | | | | 灰色 | 良好 | 外：青磁釉　面文（線彫）<br>内：青磁釉<br>龍泉窯 |
| 41 | 2 | 35 | 2 | B7 | 包含層 | 磁器 | 青磁碗 | | | (5.6) | | 灰色 | 良好 | 外：青磁釉<br>内：青磁釉<br>中国 |
| 41 | 3 | 35 | 1 | B4 | 包含層 | 磁器 | 青磁碗 | | | (7.4) | | 灰色 | 良好 | 外：青磁釉<br>内：青磁釉<br>龍泉窯 |
| 41 | 4 | 35 | 1 | A2 | 包含層 | 磁器 | 青磁碗 | | | | | 灰色 | 良好 | 外：青磁釉<br>内：青磁釉　線刻文様<br>龍泉窯 |

| Fig. | 遺物番号 | 写真図版 | 調査区 | 出土地点 | 層位 | 種別 | 器種 | 口径(cm) | 器高(cm) | 底径(cm) | 色調 | 胎土 | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 41 | 5 | 35 | 2 | C9 | 包含層 | 磁器 | 輪花皿 | | | | | 灰色 | 良好 | 外：青磁釉<br>内：青磁釉　区別文<br>龍泉窯 |
| 41 | 6 | 35 | 2 | B8 | 包含層 | 磁器 | 青磁折縁皿（蓋） | | | | | 灰色 | 良好 | 外：青磁釉<br>内：青磁釉<br>龍泉窯 |
| 41 | 7 | 35 | 1 | B2 | 包含層 | 磁器 | 青花碗 | (13.8) | | | | 灰褐色 | 良好 | 外：透明釉<br>内：透明釉<br>中国 |
| 41 | 8 | 35 | 1 | B2 | 包含層 | 磁器 | 碗 | | | | | 白色 | 良好 | 外：透明釉　魚文<br>内：透明釉<br>景徳鎮 |
| 41 | 9 | 35 | 1 | C4 | 包含層 | 磁器 | 青花碗（端花碗） | | | | | 乳白色 | 良好 | 外：透明釉　芭蕉様文<br>内：透明釉<br>景徳鎮 |
| 41 | 10 | 35 | 2 | C9 | 包含層 | 磁器 | 碗 | | | | | 白色 | 良好 | 外：透明釉　文様不明<br>内：透明釉<br>景徳鎮 |
| 41 | 11 | 35 | 1 | C2 | 包含層 | 磁器 | 青花皿 | (12.0) | | | | 灰白色 | 良好 | 外：透明釉　文様不明<br>内：透明釉<br>景徳鎮 |
| 41 | 12 | 35 | 2 | C6 | 包含層 | 磁器 | 青花皿 | | | | | 白色 | 良好 | 外：透明釉　蓮弁文<br>二重圏線内銘「大明嘉」<br>内：透明釉　花弁文<br>景徳鎮 |
| 41 | 13 | 35 | 2 | B8 | 包含層 | 磁器 | 青花端反皿 | (13.6) | | | | 白色 | 良好 | 外：透明釉　圏線<br>内：透明釉　四方襷<br>景徳鎮 |
| 41 | 14 | 35 | 1 | B2 | 包含層 | 磁器 | 端反形皿 | (9.8) | 1.8 | (5.0) | | 白色 | 良好 | 外：透明釉　三杉文<br>内：透明釉　花文<br>中国 |
| 41 | 15 | 35 | 2 | C6 | 包含層 | 磁器 | 青花皿 | | | (6.0) | | 白色 | 良好 | 外：透明釉<br>内：透明釉　飛雲文<br>景徳鎮 |
| 41 | 16 | 35 | 1 | A1 | 包含層 | 磁器 | 皿 | | | | | 白色 | 良好 | 外：透明釉　唐草文か<br>内：透明釉　花卉樹石文か<br>景徳鎮 |
| 41 | 17 | 35 | 1 | B2 | 包含層 | 磁器 | 青花皿 | | | (5.2) | | 灰白色 | 良好 | 外：透明釉<br>内：透明釉　草花文か<br>景徳鎮 |
| 41 | 18 | 35 | 1 | A5 | 包含層 | 磁器 | 青花皿 | | | (8.2) | | 白色 | 良好 | 外：透明釉<br>内：透明釉　草花文<br>景徳鎮 |
| 41 | 19 | 35 | 1 | C2 | 包含層 | 磁器 | 折縁（大）皿 | | | | | 薄褐色 | 良好 | 外：透明釉<br>内：透明釉　文様不明<br>漳州窯系 |
| 41 | 20 | 35 | 1 | B3 | 包含層 | 磁器 | 青花蓋 | | | | | 白色 | 良好 | 外：透明釉　二重圏線<br>内：透明釉<br>中国 |
| 41 | 21 | 35 | 1 | B5 | 包含層 | 磁器 | 腰張形碗 | | | (5.4) | | 白色 | 良好 | 外：透明釉　一重、二重圏線<br>二箇所文か<br>内：透明釉<br>高台：銘「年」か<br>肥前系 |
| 41 | 22 | 35 | 2 | B5 | 包含層 | 磁器 | 皿 | | | (6.8) | | 白色 | 良好 | 外：透明釉<br>内：透明釉　菊花文<br>肥前系 |
| 41 | 23 | 35 | 2 | C8 | 包含層 | 磁器 | 水滴 | | | | | 白色 | 良好 | 外：透明釉　文様不明<br>内：無釉<br>肥前系 |
| 43 | 1 | 36 | 1 | B2 | 包含層 | 土製品 | 土錘 | 長さ 3.4 | 幅 1.7 | 厚さ 1.6 | 淡褐色 | 密<br>微砂粒をわずかに含む | 良好 | ナデ調整 |
| 43 | 2 | 36 | 2 | C8 | 包含層 | 土製品 | 人形か | 長さ 3.5 | 幅 2.7 | 厚さ 1.0 | 明暗褐色 | 密 | 良好 | 外：ミガキ<br>内：指頭圧痕 |
| 43 | 3 | 36 | 2 | B9 | 包含層 | 土製品 | ふいごの羽口 | | | | 明茶褐色～明茶褐色 | 粗い | 良好 | |

## 第２表　高浜１遺跡出土木製品観察表

| Fig | 番号 | 写真図版 | 調査区 | 層位 | 出土地点 | 品目 | 長さ (cm) | 幅 (cm) | 厚さ (cm) | その他の寸法 (cm) | 木取り | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 15 | 19 | 25 | 1 | | P261 | 柱根 | (50.2) | 7.8 | (6.0) | | 丸太材 | |
| 15 | 20 | 25 | 1 | | P59 | 柱根 | 68.6 | 15.6 | 14.5 | 赫線：4.0 × 5.8<br>4.7 × 6.0 | 丸太材 | |
| 16 | 1 | 25 | 1 | | P27 | 柱根 | 60.8 | 14.8 | 13.1 | 赫線：5.0 × 6.0<br>4.4 × 4.9 | 丸太材 | 先端加工で尖る |
| 16 | 2 | 25 | 1 | | P274 | 柱根 | 55.2 | 10.0 | 9.2 | | 丸太材 | 先端加工で尖る |
| 16 | 3 | 25 | 1 | | P71 | 柱根 | 99.8 | 18.2 | 20.2 | 赫線：6.3 × 8.3<br>5.3 × 7.6 | 丸太材 | 一部焼痕 |
| 19 | 23 | 28 | 1 | | SD02 | 漆器椀 | 口径<br>(12.0) | 器高<br>(4.7) | 底径<br>(5.0) | | 横木取り | 外：赤漆塗り　高台：黒漆塗り<br>内：赤漆塗り |
| 19 | 24 | 28 | 1 | | SD02 | 漆器椀 | 口径<br>(10.6) | 器高<br>(2.3) | | | 横木取り | 外：黒漆塗り　模様一部残存（赤漆）<br>内：赤漆塗り |
| 19 | 25 | 28 | 1 | 3 層 | SD02 | 漆器椀 | 口径<br>(12.6) | 器高<br>(4.3) | 底径<br>(6.0) | | 横木取り | 外：黒漆塗り　模様一部残存（赤漆）<br>内：赤漆塗り |
| 19 | 26 | 28 | 2 | | SD02 | 漆器椀 | | 器高<br>(7.9) | 底径<br>(7.2) | | 横木取り | 外：黒漆塗り　模様一部残存（赤漆）<br>高台：黒漆塗り「上」か<br>内：赤漆塗り |
| 19 | 27 | 28 | 1 | | SD02 | 漆器椀 | 口径<br>(13.2) | 器高<br>6.5 | 底径<br>(6.0) | | 縦木取り | 外：黒漆塗り　模様一部残存（赤漆）<br>内：赤漆塗り　一部現化 |
| 19 | 28 | 28 | 1 | | SD02 | 漆器椀 | 口径<br>(12.2) | 器高<br>4.4 | 底径<br>6.4 | | 横木取り | 外：黒漆塗り　模様一部残存（赤漆）<br>高台：文字<br>内：赤漆塗り |
| 20 | 1 | 28 | 1 | | SD02 | 漆器椀 | 口径 | 器高<br>(6.5) | 底径<br>7.0 | | 横木取り | 外：黒漆塗り<br>内：赤漆塗り　底部に溝あり |
| 20 | 2 | 28 | 2 | | SD02 | 漆器椀 | | 器高<br>(5.9) | 底径<br>(7.0) | | 横木取り | 外：黒漆塗り　模様一部残存（赤漆）<br>模様のようなものが刻まれている<br>内：赤漆塗り |
| 20 | 3 | 29 | 2 | | SD02 | 漆器椀 | | 器高<br>(4.5) | 底径<br>(7.2) | | 横木取り | 外：黒漆塗り<br>高台：黒漆塗り<br>内：赤漆塗り |
| 20 | 4 | 28 | 2 | | SD02 | 漆器椀 | | 器高<br>(5.7) | | | 横木取り | 外：黒漆塗り　模様一部残存（赤漆）<br>内：赤漆塗り |
| 20 | 5 | 29 | 1 | | SD02 | 漆器椀 | 口径<br>(15.4) | 器高<br>8.1 | 底径<br>6.6 | | | 外：黒漆塗り<br>内：赤漆塗り |
| 20 | 6 | 29 | 1 | | SD02 | 曲物底板 | (17.0) | (4.3) | (0.4) | 孔径：0.3 | 柾目 | 2 孔　黒色付着物残存<br>刃先痕 |
| 20 | 7 | 29 | 1 | | SD02 | 曲物底板 | (11.2) | (3.4) | (0.4) | 孔径：0.5 | 柾目 | 1 孔　刃物痕　一部焼痕 |
| 20 | 8 | 29 | 1 | | SD02 | 棒状製品 | 5.2 | 2.5 | (1.7) | | 半裁<br>削出し | 加工痕 |
| 20 | 9 | 29 | 1 | | SD02 | 棒状製品 | (5.6) | 3.0 | 2.8 | | 板目 | 加工痕 |
| 20 | 10 | 29 | 1 | | SD02 | 板状製品 | (16.0) | 5.1 | 1.0 | | 板目 | |
| 20 | 11 | 29 | 1 | | SD02 | 板状製品 | (11.7) | 4.1 | (0.5) | | 板目 | 加工痕　刃物痕　一部焼痕 |
| 20 | 12 | 29 | 1 | | SD02 | 板状製品 | (11.8) | 5.3 | 1.1 | | 板目 | 加工痕 |
| 20 | 13 | 29 | 2 | | SD02 | 柄<br>（刀か刀子） | 12.7 | 3.0 | 2.2 | | 柾目 | 切込みを入れて茎部を挿入する形態 |
| 20 | 14 | 29 | 1 | 3 層 | SD02 | 板状製品 | (10.0) | (7.6) | 1.2 | 孔径：1.3 | 板目 | 1 孔 |
| 20 | 15 | 28 | 1 | 3 層 | SD02 | 編具 | 20.5 | 最小 2.4<br>最大 4.0 | 最小 2.3<br>最大 3.4 | | 心持材 | 加工痕　一部樹皮残存 |
| 20 | 16 | 29 | 1 | 3 層 | SD02 | 杭 | (98.4) | 2.7 | 2.6 | | 丸太材 | 先端加工で尖る　先端焼痕 |
| 20 | 17 | 29 | 1 | 3 層 | SD02 | 杭 | (127.5) | 2.3 | 2.5 | | 丸太材 | 先端加工で尖る　一部樹皮残存 |
| 24 | 5 | 30 | 1 | | SX02 | 柱根 | (29.5) | 13.0 | 11.4 | | 丸太材 | |
| 27 | 3 | 30 | 2 | | SX04 | 折敷底板 | (25.6) | (12.9) | (0.5) | | 柾目 | 1 孔 |
| 27 | 4 | 30 | 2 | | SX04 | 折敷残 | (34.4) | (1.9) | (0.3) | | 柾目 | 2 孔　綴紐一部残存　折り角あり |
| 29 | 1 | 30 | 2 | | SX05 | 折敷側板 | (14.2) | (2.9) | (0.2) | | 柾目 | 切込みあり |
| 29 | 2 | 30 | 2 | | SX05 | 折敷側板 | (18.4) | 3.0 | 0.2 | | 柾目 | 切込みあり |

| Fig. | 番号 | 写真図版 | 調査区 | 遺位 | 出土地点 | 品目 | 長さ (cm) | 幅 (cm) | 厚さ (cm) | その他の寸法 (cm) | 木取り | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 29 | 3 | 30 | 2 | | SX05 | 折敷側板 | 18.3 | (3.0) | (0.2) | | 柾目 | 切込みあり　刃物痕 |
| 29 | 4 | 30 | 2 | | SX05 | 折敷側板 | (16.5) | (3.0) | (0.15) | | 柾目 | 切込みあり　刃物痕 |
| 29 | 5 | 30 | 2 | | SX05 | 折敷桟 | (39.5) | 2.0 | 0.2 | | 柾目 | 2 孔　黒色付着物残存<br>折り角あり |
| 29 | 6 | 30 | 2 | | SX05 | 折敷底板 | 31.6 | (28.1) | 0.6 | | 柾目 | 8 孔　黒色付着物残存<br>刃先痕 |
| 31 | 3 | 30 | 2 | | SX06 | 曲物底板 | | | 0.7 | 最小径：12.1<br>最大径：12.7 | 柾目 | |
| 31 | 4 | 30 | 2 | | SX06 | 板状製品 | (6.3) | (2.7) | 0.9 | 孔径：0.5 | 柾目 | 2 孔 |
| 31 | 5 | 30 | 2 | | SX06 | 曲物底板 | (16.7) | (4.5) | 0.7 | | 板目 | |
| 36 | 5 | 31 | 2 | | SE01 | 箸状木製品 | (9.9) | 0.7 | 0.7 | | | |
| 36 | 6 | 31 | 2 | | SE01 | 箸状木製品 | (9.6) | 0.8 | 0.8 | | | |
| 36 | 7 | 31 | 2 | | SE01 | 板状製品 | (12.0) | 2.0 | 0.4 | | 柾目 | 漆（黒）塗りか |
| 36 | 8 | 31 | 2 | | SE01 | 棒状製品 | (24.8) | 1.4 | 2.3 | | | 先端加工で尖る |

## 第３表　高浜１遺跡出土銭貨計測表

| Fig. | 番号 | 写真図版 | 調査区 | 遺位 | 出土地点 | 名称 | 銭径 A (cm) | 銭径 B (cm) | 内径 A (cm) | 内径 B (cm) | 銭厚 (cm) | 量目 (g) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 24 | 3 | 36 | 1 | | SX02 | 不明 | 2.28 | 2.26 | 0.65 | 0.66 | 0.09 | 1.80 | |
| 33 | 1 | 36 | 2 | | SX08 | 二二元二<br>他４枚不明 | 2.45 | 2.35 | 0.62 | 0.62 | 0.68<br>(５枚分) | 12.9<br>(５枚分) | ５枚連結<br>上１枚のみ計測 |
| 42 | 1 | 36 | 2 | 包含層 | B7 | 不明 | 2.32 | 2.36 | 0.64 | 0.69 | 0.12 | 1.50 | |
| 42 | 2 | 36 | 2 | 包含層 | B7 | 太二通寶 | 2.13 | 2.43 | | 0.60 | 0.13 | 1.20 | |
| 42 | 3 | 36 | 1 | 包含層 | B1 | 聖宋元寶か | 2.35 | 2.37 | 0.58 | 0.70 | 0.09 | 1.50 | |
| 42 | 4 | 36 | 2 | 包含層 | C6 | 不明 | 2.39 | 2.40 | 0.57 | 0.54 | 0.11 | 2.70 | |
| 42 | 5 | 36 | 1 | 包含層 | A1 | 開元通寶 | 2.40 | 2.38 | 0.63 | 0.65 | 0.10 | 2.20 | |
| 42 | 6 | 36 | 1 | 包含層 | B3 | 二武二寶 | | | | | 0.15 | 0.90 | 銹片のため<br>計測不能 |

## 第４表　高浜１遺跡出土石製品観察表

| Fig. | 番号 | 写真図版 | 調査区 | 遺位 | 出土地点 | 種別 | 長さ (cm) | 幅 (cm) | 厚さ (cm) | 重量 (g) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 15 | 16 | 25 | 1 | | P78 | 茶臼か（上臼） | 径 (35.2) | | | 113.0 | |
| 15 | 17 | 25 | 1 | | P160 | 砥石 | (10.6) | 5.8 | 4.6 | 349.0 | 全面使用　刃先痕 |
| 15 | 18 | 25 | 1 | | P119 | 砥石 | (6.7) | 6.2 | 6.5 | 260.0 | 1 面使用　刃先痕 |
| 21 | 1 | 29 | 2 | | SD02 | 磨臼（上臼） | 30.0 | | 10.6 | 7500 | |
| 21 | 2 | 29 | 2 | | SD02 | 磨臼（下臼） | 36.0 | | 10.7 | 1,350 | |
| 24 | 4 | 30 | 1 | | SX01 | 置石 | 31.8 | 25.6 | 14.5 | 1,395 | 焼痕 |
| 36 | 3 | 31 | 1 | | SE01 | 砥石 | (5.6) | 6.3 | 3.6 | 119.0 | 2 面使用　刃先痕 |
| 36 | 4 | 31 | 2 | | SE01 | 砥石 | (12.8) | 6.2 | 5.0 | 536.0 | 3 面使用 |
| 42 | 7 | 36 | 1 | 包含層 | B2 | 砥石 | (5.4) | 5.4 | 3.7 | 150.0 | 2 面使用　刃先痕 |
| 42 | 8 | 36 | 1 | 包含層 | B3 | 砥石 | (8.2) | 6.4 | (2.7) | 189.0 | 2 面使用　刃先痕 |
| 42 | 9 | 36 | 2 | 包含層 | B6 | 砥石 | 6.7 | 5.3 | 2.7 | 74.0 | 4 面使用　刃先痕 |
| 42 | 10 | 36 | 2 | 包含層 | B6 | 砥石 | 7.4 | 4.6 | 2.1 | 155.0 | 4 面使用　刃先痕 |
| 42 | 11 | 36 | 1 | 包含層 | B3 | 砥石 | (2.5) | (2.6) | 1.6 | 15.0 | 2 面使用　刃先痕 |

# 写真図版

1．2-1 区調査前風景（南から）

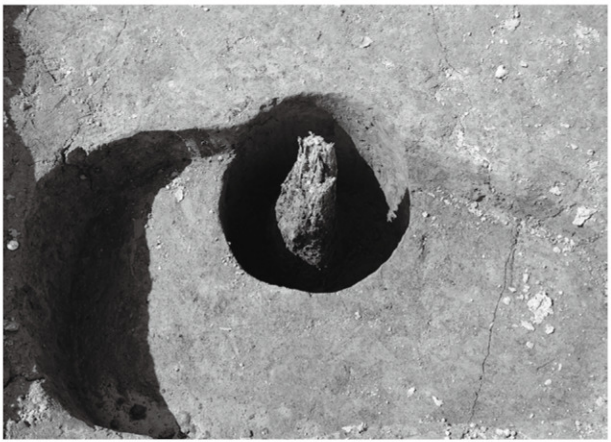
2．2-1 区 SB01 完掘状況（東から）

1．2-1 区 SB02 完掘状況（西から）

2．2-1 区 SB04･06 完掘状況（西から）

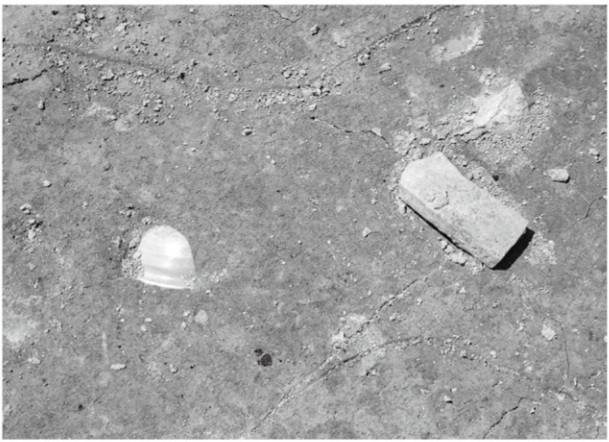
1. 2-1 区 SB05 完掘状況（西から）

2. 2-1 区 SK08 及びピット完掘状況（北西から）



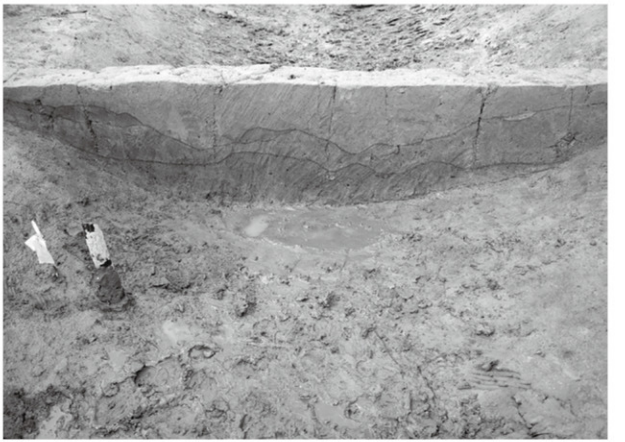
1. 2-1 区ピット 56 完掘状況（北から）

2. 2-1 区ピット 69 完掘状況（北から）



1. 2-1 区ピット 142 遺物出土状況（東から）

2. 2-1 区 SD02 検出状況（北から）



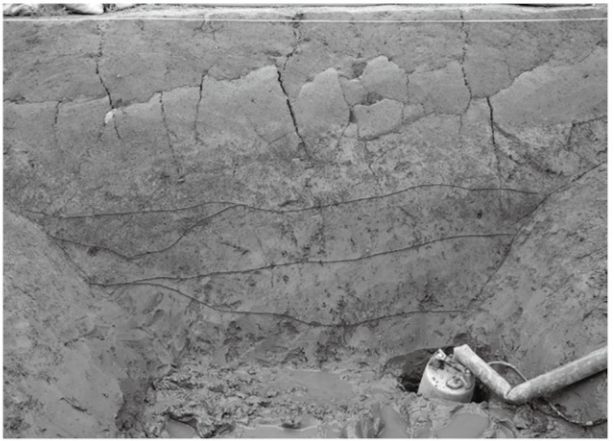
1．2-1 区 SD02 セクション（南から）

2．2-1 区 SD02 遺物出土状況（南東から）

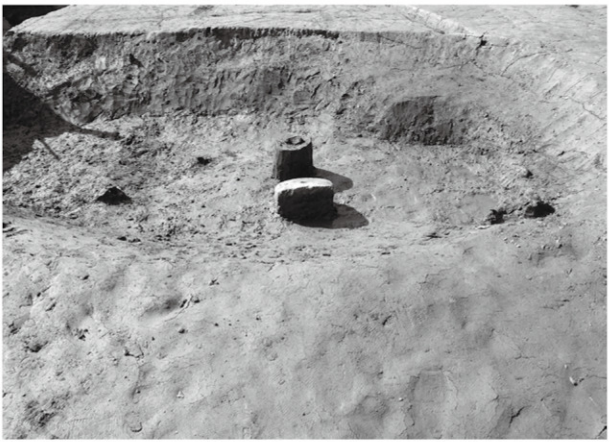
1．2-1 区 SD02 遺物出土状況（東から）

2．2-1 区 SD02 遺物出土状況（南から）

1．2-1 区 SD02 完掘状況（北から）



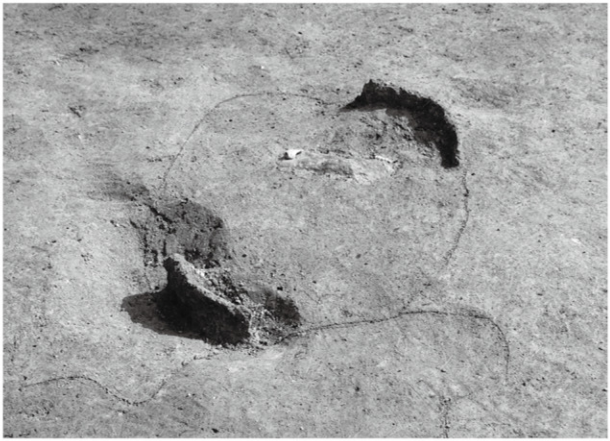
2．2-2 区 SD02 セクション（北から）



1．2-2 区 SD02 遺物出土状況（東から）

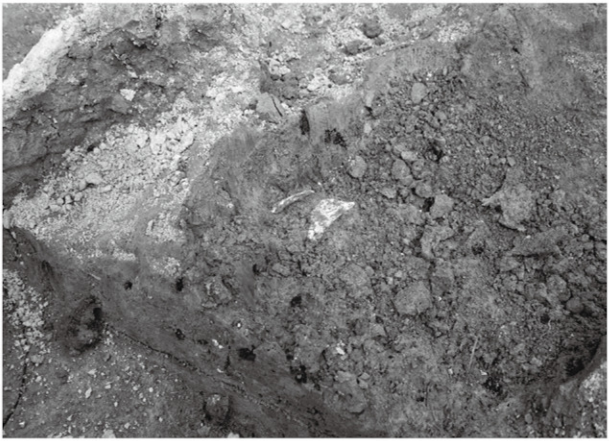
2．2-2 区 SD02 完掘状況（北から）

1．2-1 区南側遺構検出状況（南から）



2．2-1 区 SX01 検出状況（北から）

1. 2-1 区 SX01 半裁状況（北から）

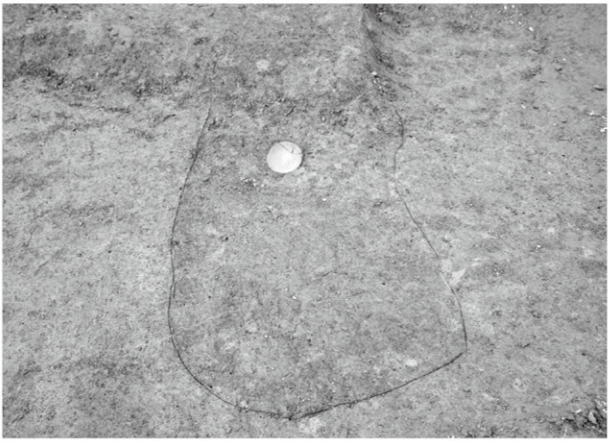


2. 2-1 区 SX01 骨片出土状況（南東から）

1．2-1 区 SX01 置石出土状況（北から）

2．2-1 区 SX01 完掘状況（北から）

1. 2-2 区 SX03･04 検出状況 ( 東から )



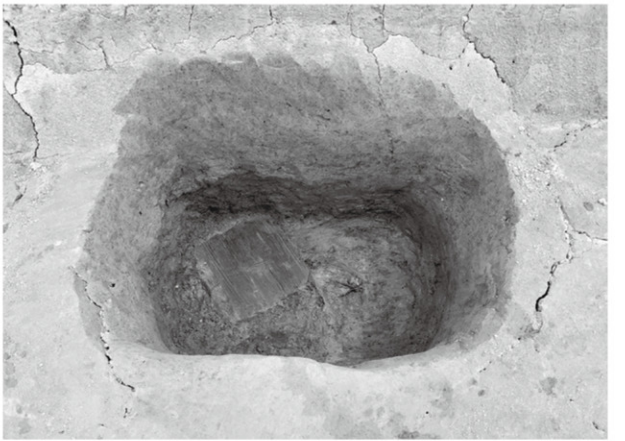
2. 2-2 区 SX03 遺物出土状況（南から）

1．2-2 区 SX04 内部状況（北から）

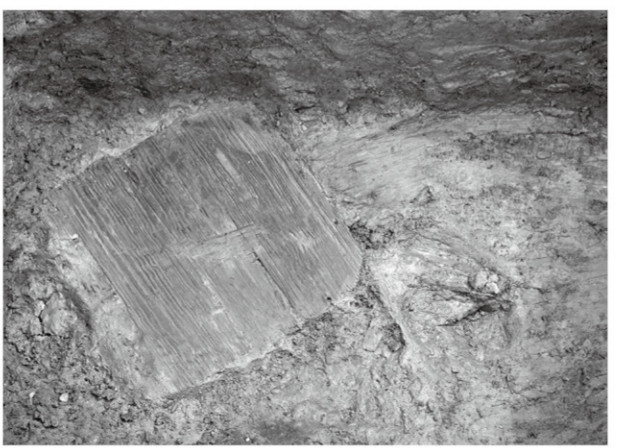
2．2-2 区 SX04 出土遺物（北から）

1. 2-2 区 SX04・07 完掘状況（東から）

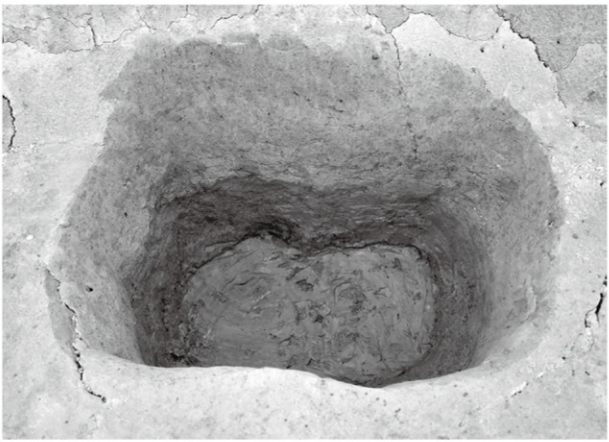
2. 2-2 区 SX03・04・07 完掘状況（南から）



1．2-2 区 SX05 内部状況（西から）



2．2-2 区 SX05 出土遺物（西から）



1. 2-2 区 SX05 完掘状況（西から）

2. 2-2 区 SX06 完掘状況（西から）

1．2-2 区 SX06 出土遺物（西から）

2．2-2 区 SE01 検出状況（南から）

1．2-2 区 SE01 半裁状況（北東から）

2．2-2 区 SE01 セクション（北から）

1．2-2 区 SE01 完掘状況（北西から）

2．2-2 区 SE01 底面検出状況（南西から）

1．2-2 区 SR01 完掘状況（東から）

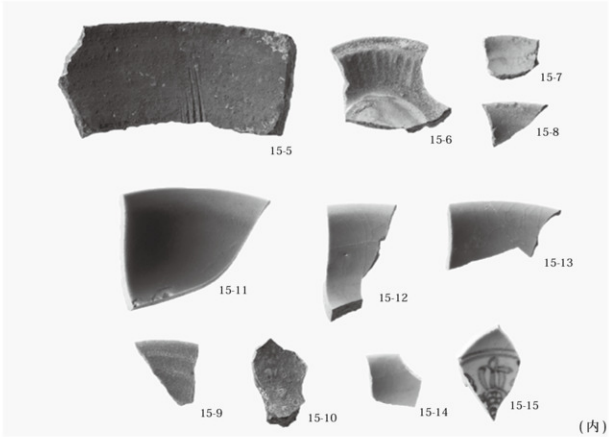
2．2-1 区南側調査区完掘状況（西から）

1．2-1 区北側調査区完掘状況（西から）

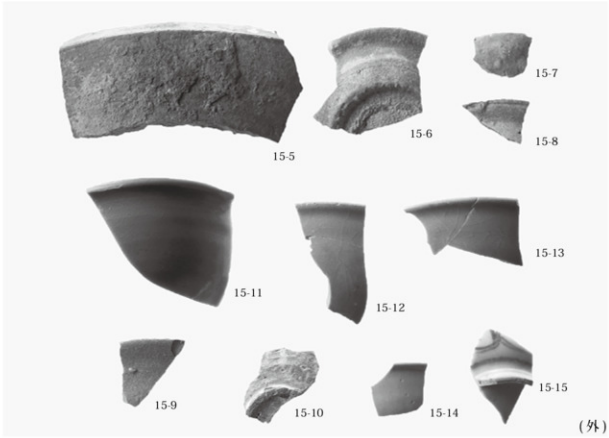
2．2-2 区全景完掘状況（北東から）

2．2-1 区調査区全景

2．2-2 区調査区全景



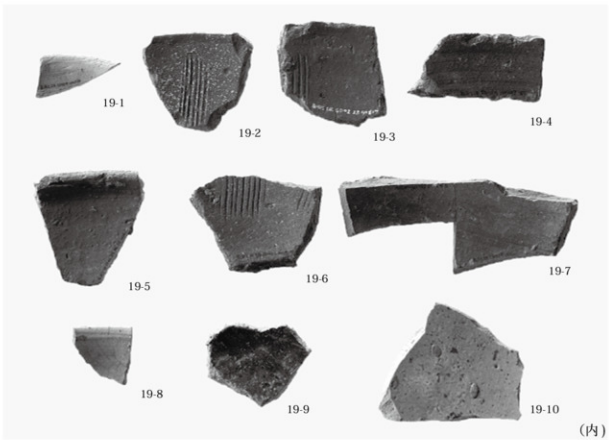

1. ピット出土遺物（1）　（第 15 図）



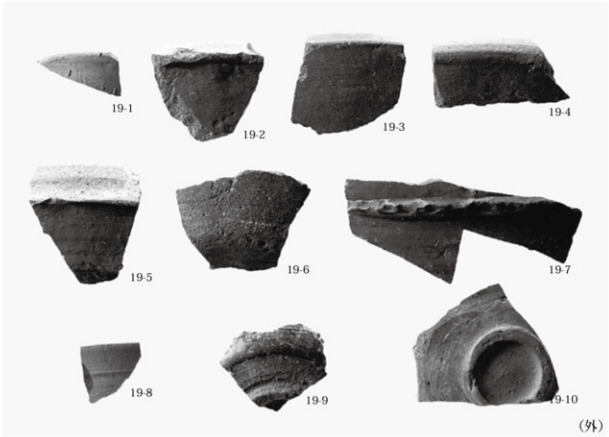

2. ピット出土遺物 (1)（第 15 図）

1. ピット出土遺物（2）（第 15 図）

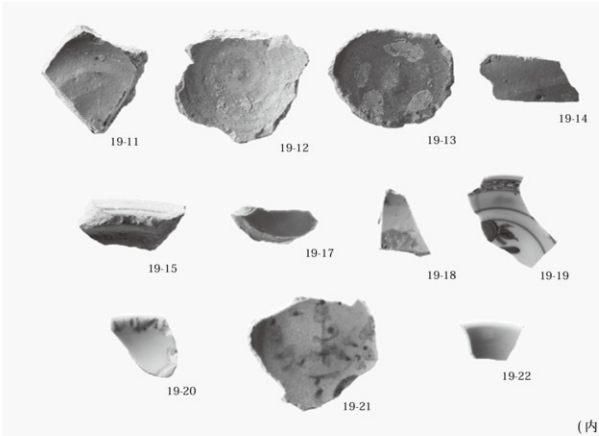
2. ピット柱根 （第 15･16 図）



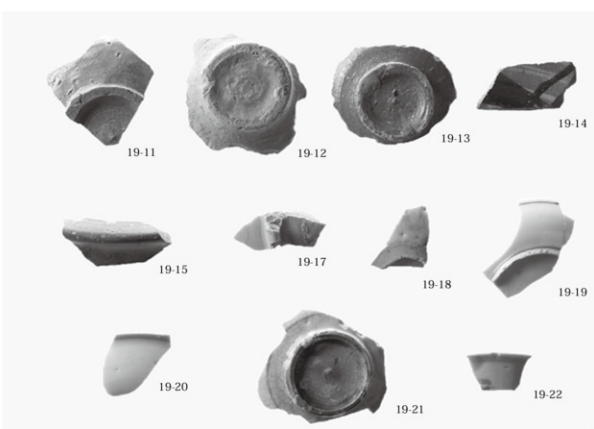

1. SD02 出土遺物（1）（第 19 図）




2. SD02 出土遺物（1）（第 19 図）




1. SD02 出土遺物 (2) （第 19 図）

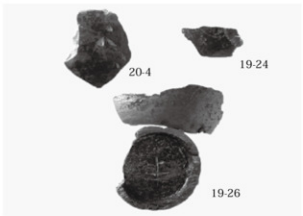



2. SD02 出土遺物 (2) （第 19 図）

19-16

19-23

19-25


20-4

19-24

19-26

19-27

1. SD02 出土遺物（3）（第 19 図）

19-28

20-1

20-2

20-15

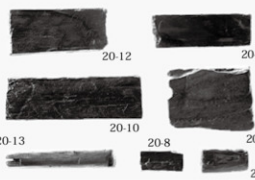
2. SD02 出土遺物（4）（第 19･20 図）

20-3

20-5

20-6

20-7


20-12
20-11
20-10
20-13
20-8
20-14
20-9

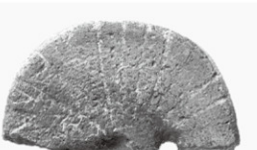
20-16

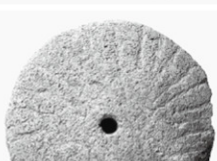
20-17

1. SD02 出土遺物（5）（第 20・21 図）

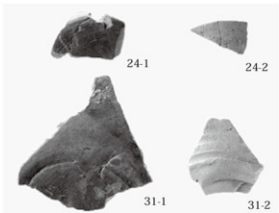
22-1
22-2
22-3
（内）

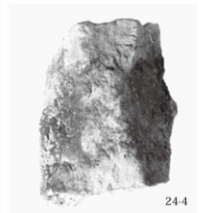
22-1
22-2
22-3
（外）


21-1


21-2

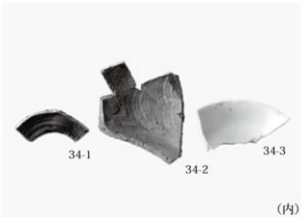
2. SD02・03 出土遺物 （第 21・22 図）

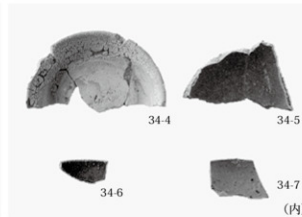


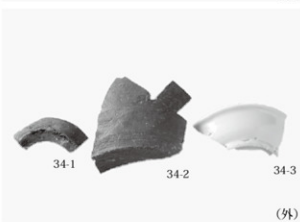



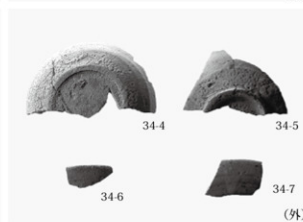
1. SX01 ～ 06 出土遺物（1）（第 24・27・31 図）

2. SX01 ～ 06 出土遺物（2）（第 27・29・31 図）

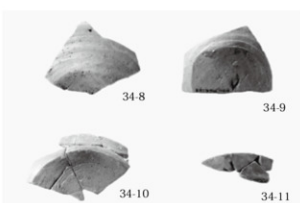


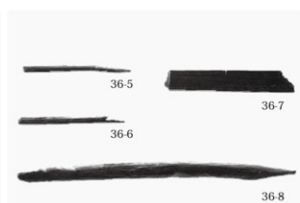



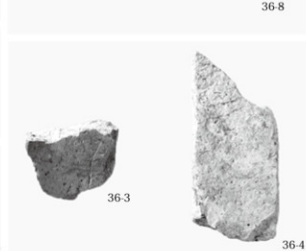



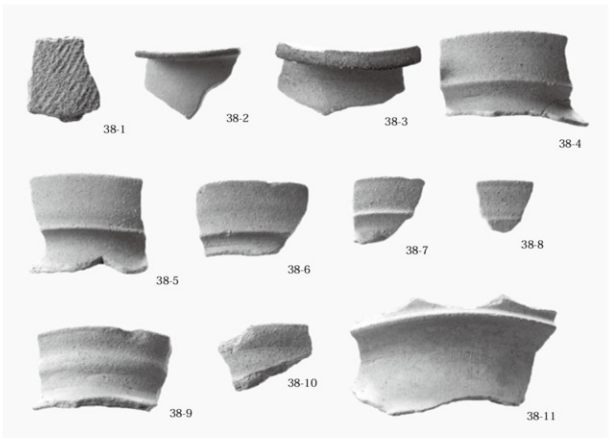

1. SK05・07 出土遺物 （第 34 図）



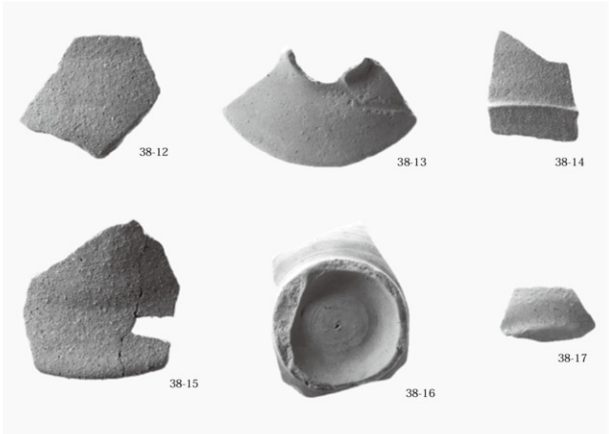





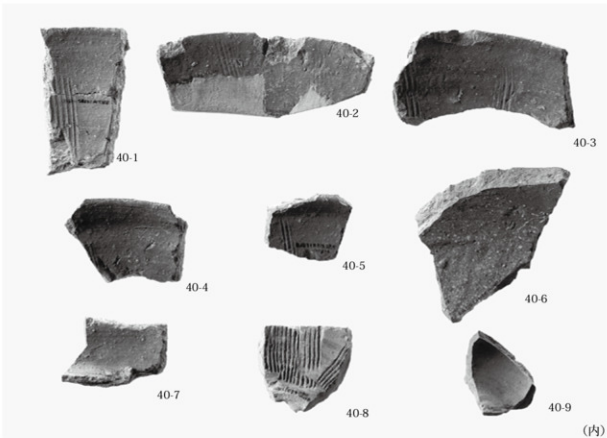

2. SK08・SE01 出土遺物 （第 34・36 図）



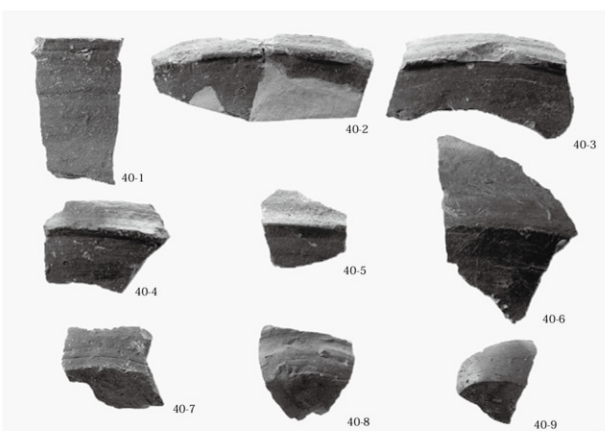

1. SR01 出土遺物（1）（第 38 図）



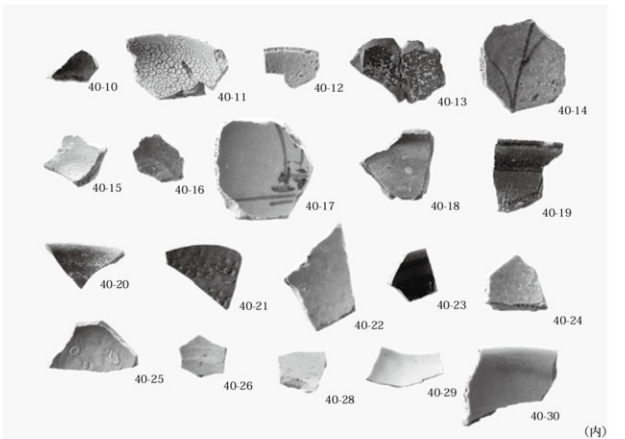

2. SR01 出土遺物（2）（第 38 図）



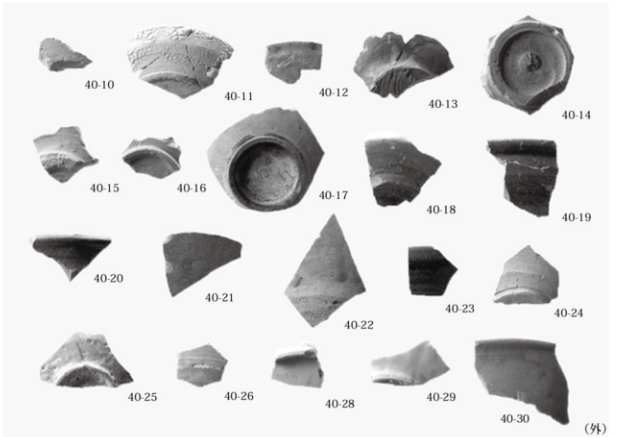

1. 包含層出土遺物 (1) （第 40 図）



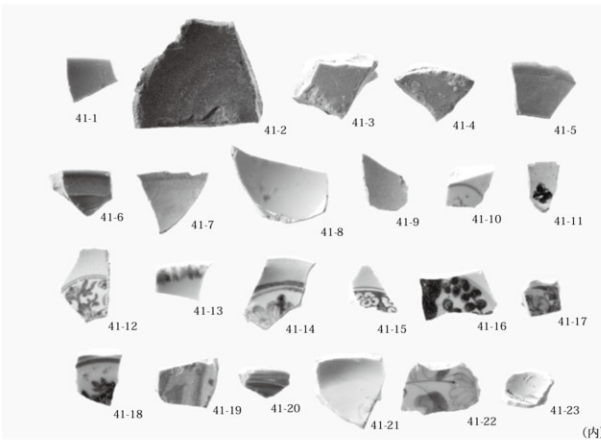

2. 包含層出土遺物（1）（第 40 図）



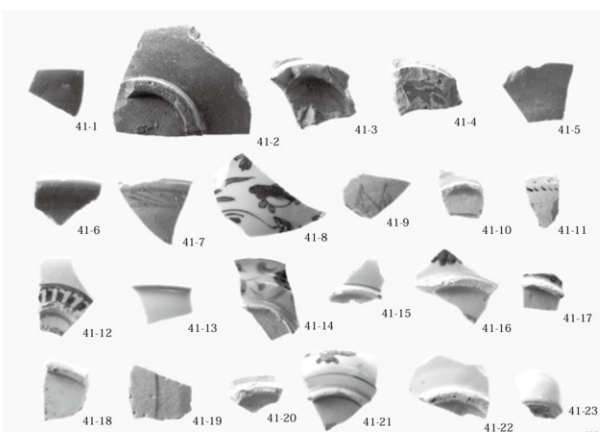

1. 包含層出土遺物（2）（第 40 図）



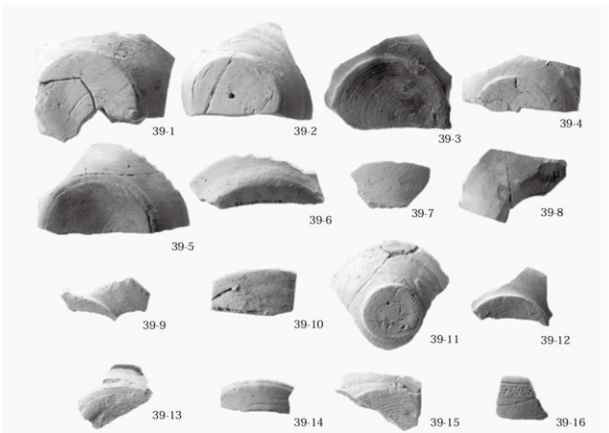

2. 包含層出土遺物（2）（第 40 図）



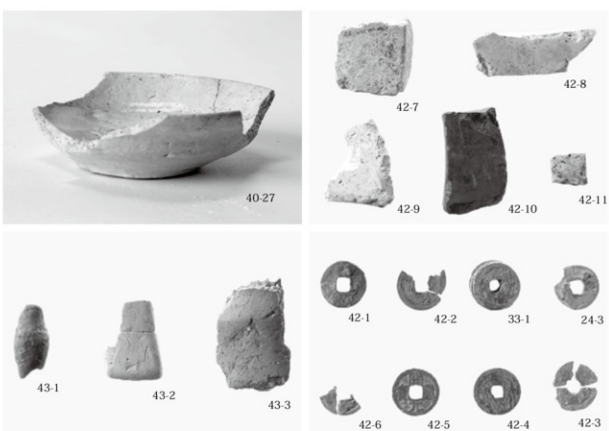

1. 包含層出土遺物（3）（第 41 図）




2. 包含層出土遺物（3）（第 41 図）




1. 包含層出土遺物（4）（第 39 図）




2. 包含層出土遺物（5）（第 24・33・40・42・43 図）

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| フリガナ | タカハマイチ　イセキ |
| 書名 | 高浜1遺跡（2区） |
| 副書名 | |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | 一般県道矢尾今市線地方道路交付金事業（大塚工区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| シリーズ番号 | 3 |
| 編著者名 | 今岡一三 |
| 編集機関 | 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター |
| 所在地 | 〒690－0131　島根県松江市打出町33番地<br>℡0852-36-8608（代）E-mail maibun@pref.shimane.lg.jp　http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/ |
| 発行年月日 | 西暦2016年3月31日 |

| 所収遺跡名 | 所在地 | コード 市町村 | コード 遺跡番号 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| タカハマイチ<br>高浜1 | シマネケンイズモシ<br>島根県出雲市<br>タカオカチョウ<br>高岡町 | 32203 | W171 | 36°<br>05′<br>15″ | 136°<br>57′<br>51″ | 20140603<br>～<br>20141010 | 1,600 | 道路建設 |

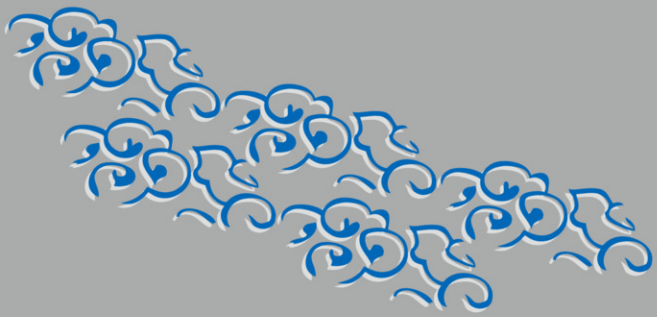
| 遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 高浜1 | 集落跡 | 中世 | 自然河道　1条<br>掘立柱建物　6棟<br>柱穴群<br>土坑・墓　8基<br>大溝　1条<br>溝状遺構　10条 | 縄文土器、弥生土器、土師質土器、輸入陶磁器、国産陶器、金属製品、木製品 | |

| | |
|---|---|
| 要約 | 高浜1遺跡では、16世紀～17世紀頃と考えられる建物跡やそれを区画していたと考えられる大溝、墓、土坑等が検出された。出土遺物の中には、中国や朝鮮半島、国内の各地で生産された陶磁器類も多数含まれる中世の集落跡。 |

高浜Ⅰ遺跡（2区）
一般県道矢尾今市線地方道路交付金事業（大塚工区）
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書3

2016年3月発行

編集　島根県埋蔵文化財調査センター
〒690-0131
島根県松江市打出町33
℡　0852-36-8608
印刷　有限会社　松本印刷

# TAKAHAMA I SITE
## Loc.2 Excavation Report

March,2016
Shimane Prefectual Board of Education